

MEDIAEDGE

Status Monitor

取扱説明書



2022/01

Copyright (C) 2022 MEDIAEDGE Corporation

目次

I. はじめに.....	1
I-1. 本製品を使用される際の注意事項	2
■ I-1-1. 注意事項	2
■ I-1-2. 個人情報の取扱いについて	2
■ I-1-3. 商標について	3
■ I-1-4. 警告	3
I-2. ご使用前に.....	6
■ I-2-1. 対応 OS.....	6
■ I-2-2. 対応製品	6
■ I-2-3. 表記について	6
■ I-2-4. 当社ホームページについて	7
II. インストール.....	8
II-1. Status Monitor の単独インストール.....	9
■ II-1-1. Status Monitor のインストール	9
■ II-1-2. MEDIAEDGE-API 設定ツール	13
■ II-1-3. StatusMonitor 初回起動時の設定	15
II-2. Display Content Manager からのインストール.....	17
■ II-2-1. DCM の入手	17
■ II-2-2. DCM のインストール	17
■ II-2-3. StatusMonitor 初回起動時の設定	17
III. ターゲットの登録.....	18
III-1. Status Monitor を単独で利用する場合.....	19
■ III-1-1. ターゲットの手動登録(Direct 接続)	19
■ III-1-2. ターゲットの半自動登録(Indirect 接続).....	21
III-2. Display Content Manager と合わせて利用する場合.....	23
IV. 操作方法.....	24
IV-1. メイン画面	25
■ IV-1-1. 画面構成	25
■ IV-1-2. 再生状態画面	26
■ IV-1-3. 設定表示画面	26
■ IV-1-4. 転送状態画面	27
IV-2. ファイルメニュー	28
■ IV-2-1. 設定インポート.....	28
■ IV-2-2. 設定エクスポート.....	30
■ IV-2-3. ログの取得	32
■ IV-2-4. 閉じる	33

IV-3. 表示メニュー	34
■ IV-3-1. ステータスの更新.....	34
■ IV-3-2. 最新の情報に更新.....	34
■ IV-3-3. 更新間隔.....	34
■ IV-3-4. WEB コンソールを開く.....	35
■ IV-3-5. 共有フォルダを開く.....	37
■ IV-3-6. ステータス表示エリアを切り替える	38
IV-4. コントロールメニュー	39
■ IV-4-1. ファームウェア更新	39
■ IV-4-2. 電源管理	41
■ IV-4-3. モニター電源管理	42
■ IV-4-4. チャンネル選択	42
■ IV-4-5. 音量管理	45
■ IV-4-6. 割り込み再生.....	46
IV-5. ツールメニュー	51
■ IV-5-1. カラム設定	51
■ IV-5-2. 接続設定	52
■ IV-5-3. オプション	52
IV-6. ヘルプメニュー	53
■ IV-6-1. ログフォルダを開く	53
■ IV-6-2. バージョン情報	53
IV-7. オプション設定	54
■ IV-7-1. 監視対象リスト.....	54
■ IV-7-2. メール宛先リスト	56
■ IV-7-3. 監視設定	57
■ IV-7-4. メール通知設定	59
■ IV-7-5. ログ設定	61

I. はじめに

この章では、ステータスマニターのご使用やセットアップの前に確認していただきたい事項や、ご注意ください事項について説明します。

I-1. 本製品を使用される際の注意事項

ここでは、本製品(=Status Monitor ソフトウェア)を使用されるときにご注意いただきたい事柄について説明いたします。ご使用方法や、この内容について不明な点、疑問点などがございましたら、MEDIAEDGE 株式会社カスタマーサポートまでお問い合わせください。

MEDIAEDGE 株式会社 カスタマーサポート

TEL:078-265-1552

FAX:078-265-1550

(月曜～金曜 10:00～12:00、13:00～17:00 ※土日祝および当社指定休日を除く)

■ I-1-1. 注意事項

- ① 本製品の構成や仕様は将来予告なしに変更することがあります。
- ② 本製品は構成について万全を期して開発しておりますが、万一ご不審な点や不備等お気づきの点がございましたら、MEDIAEDGE 株式会社カスタマーサポートまでご連絡ください。
- ③ 運用した結果については、②項にかかわらず責任を負いかねますので、ご了承ください。
- ④ ご使用上の過失の有無を問わず、本製品の運用において発生した逸失利益を含む特別、付随的、または派生的損害に対するいかなる請求があったとしても、当社はその責任を何ら負わないものとします。
- ⑤ 製品本来の使用目的及び、当社が推奨する使用環境以外での本製品の動作保証は、一切いたしかねます。
- ⑥ 本製品、ならびに本製品に付属するマニュアル、その他添付物を含めたすべての関連製品に関して、一部または全部を無断で複製することを禁止します。
- ⑦ 本製品付属のソフトウェア、ハードウェア、その他添付物を含めたすべての関連製品に関して、解析、リバースエンジニアリング、デコンパイル、ディスアセンブリを禁じます。

■ I-1-2. 個人情報の取扱について

当社では、お客様の個人情報は原則として下記の目的以外では使用いたしません。

- ご利用の当社製品のサポートの実施

当社製品の使用状況調査、製品改良、製品開発、サービス向上を目的としたアンケートの実施。

※ 調査結果につきましては、お客様の個人情報を含まない形で当社のビジネスパートナーに参考資料として提供することがあります。

- 銀行口座やクレジットカードの正当性、有効性の確認。
- ソフトウェアのバージョンアップや新製品の案内等の情報提供。
- 懸賞企画等で当選されたお客様への賞品の発送。

事前にお客様のご了承を得た上で、上記以外の目的で使用させていただく場合があります。当社ではご記入いただいた情報を適切に管理し、特段の事情がない限りお客様の承諾なく第三者に開示・提供することはございません。

お客様の個人情報の取扱いに関するお問い合わせ、ご意見は <http://www.mediaedge.co.jp> までご連絡ください。

■ I-1-3. 商標について

- MEDIAEDGE は MEDIAEDGE 株式会社の登録商標です。
- HDMI、HDMI ロゴ、および High-Definition Multimedia Interface は、HDMI Licensing LLC の商標または登録商標です。
- Manufactured under license from Dolby Laboratories.
- Dolby and the double-D symbol are trademarks of Dolby Laboratories.
- Microsoft、Windows、Internet Explorer は米国マイクロソフト・コーポレーションの登録商標です。
- その他の商品名やそれに類するものは各社の商標または登録商標です。

■ I-1-4. 警告

● 健康上のご注意

ごくまれに、コンピュータのモニターおよびテレビ画面に表示される強い光の刺激や点滅によって、一時的にてんかん・意識の喪失などが引き起こされる場合があります。こうした経験をこれまでになされたことがない方でも、それが起こる体質をもっていることも考えられます。こうした経験をお持ちの方や、経験をお持ちの方の血縁にあたる方は、本製品を使用される前に必ず医師と相談してください。

● 著作権法等の法的責任について

テレビ放送やビデオなど、他人の作成した映像/音声をキャプチャしたデータは、動画、静止画に関わらず個人として楽しむ以外は、著作権法上、権利者に無断では使用できません。また、個人として楽しむ目的であっても複製が制限されている場合があります。

収録媒体等に表示されている権利者または権利者団体等を介する等の方法により、著作権者から許諾を受けて、複製または編集等を行う必要があります。

本製品でのご利用は、ご使用者の責任のもとに行われるものとし、当社はこれによって生ずる著作権法、個人情報保護法、その他の法令に基づく責任を何ら負わないものとします。

● コンピュータの取扱いに関して

本製品をインストールするサーバーコンピュータおよびパーソナルコンピュータ(以下、コンピュータ)の取扱いに関しては、下記にご注意ください。

(*) 電源コード(注意:ノート PC の場合は AC アダプタ)を傷つけない

コンピュータの電源コード、または AC アダプタを傷つけると、火災や感電の原因となります。コードの上に重いものをのせたり、熱器具に近づけたりしないでください。また、電源コードを折り曲げたり、加工したりしないでください。また、電源コードを抜くときは、プラグ部分を持ってください。電源コードが傷んだら、お買い上げの販売店まで交換をご依頼ください。

(*) 筐体を開けない

コンピュータの筐体を開けたり改造したりすると、火災や感電の原因となります。内部の点検、修理はお買い上げの販売店までご依頼ください。

(*) コンピュータをほこりや湿気の多い場所では使用しない

ショートや発熱が起こり、火災や感電の原因となります。

(*) 内部に水や異物を入れない

コンピュータ内部に水や異物が入ると、火災や感電の原因となります。万一、水や異物が入った場合は、機器の電源を切り、電源コード、または AC アダプタをコンセントから抜いて、お買い上げの販売店までご連絡ください。

(*) 雷が鳴り出したら使わない

コンピュータ本体やプラグには触れないでください。感電の原因となります。

ぬれた手で電源コード、または AC アダプタを触らない

ぬれた手でコンピュータの電源コード、または AC アダプタを抜き差ししないでください。感電の原因となります。

(*) 直射日光の当たる場所に置かない

コンピュータは日光の当たる場所や熱器具のそばに置かないでください。火災や製品の故障の原因となります。

(*) 煙が出た状態で使用しない

コンピュータから煙が出る、異臭がするなどの異常状態で使用しないでください。火災や製品の故障の原因となります。異常が発生したら、コンピュータの電源を切り、電源コード、または AC アダプタを抜いて、煙が消えたのを確認してから、お買い上げの販売店までご連絡ください。

(*) 不安定な場所に置かない

コンピュータを不安定な台の上や傾いたところに置かないでください。落下するおそれがあり、けがや、故障の原因となります。

(*) お手入れの際は電源を切る

接続するときやお手入れの際は、電源コードまたは AC アダプタを抜いてください。感電や製品の故障の原因となります。お手入れの際は、シンナーなどの揮発性の溶剤を使用しないでください。

(*) 指定外の電源コードまたは AC アダプタを使わない

コンピュータ付属の電源コードまたは AC アダプタ以外の製品を使わないでください。火災や製品の故障の原因となります。

(*) コード類は正しく配置する

電源コード、または AC アダプタ、AV ケーブルは整理して配置してください。足にひっかけると、けがや製品の故障の原因となります。

(*) コンピュータを布などで覆わない

風通しの悪い場所や布などで覆った状態で使用しないでください。通風孔がふさがれると内部に熱がこもって、火災や製品の故障の原因となります。

(*) 長時間使わないときは電源コード、または AC アダプタを外す

使用しないときは、安全のためコンピュータの電源コード、または AC アダプタをコンセントから外してください。

I-2. ご使用前に

■ I-2-1. 対応 OS

ステータスマニターは以下の OS にて動作します。

- Windows Server 2022 64bit Standard/Datacenter
- Windows Server 2019 64bit Standard/Datacenter
- Windows Server 2016 64bit Standard
- Windows Server 2012/2012R2 64bit Standard
- Windows 11 64bit Pro
- Windows 10 64bit Pro/Enterprise
- Windows 8/8.1 64bit Pro/Enterprise

※Windows 8, 8.1, 10, 11 の Home エディションにインストールすることはできません。

■ I-2-2. 対応製品

ステータスマニターを用いて以下の製品を管理できます。



USDP-R5000
2017 年 2 月



USDP-R2200
2019 年 9 月



USDP-R1000
2021 年 8 月



USDP-R500
2022 年 1 月



ME-DEC
2013 年 6 月



USDP-R2000 (旧)



HDSS-4K (旧)



HDMA-4100 (旧)

■ I-2-3. 表記について

- 本書は、2022 年 1 月現在の製品構成で記述されています。
- 本書での説明と実際の運用方法とで相違点がある場合には、実際の運用方法を優先するものとします。
- 説明の便宜上、実際の製品とイラストおよび画面写真が異なる場合があります。
- 本書はパソコンの基本的な操作を行うことができる方を対象に書かれています。特に記載のない操作については、一般的なパソコンの操作と同じように行ってください。

■ I-2-4. 当社ホームページについて

本製品を始めとする当社の最新情報をホームページ (<http://www.mediaedge.co.jp>) にて発信しています。最新のドライバー、ユーティリティ、製品マニュアル、FAQ などを公開していますので、当社ホームページに是非アクセスいただきご活用ください。

II. インストール

この章では、ステータスマニターのインストール方法について説明します。

II-1. Status Monitor の単独インストール

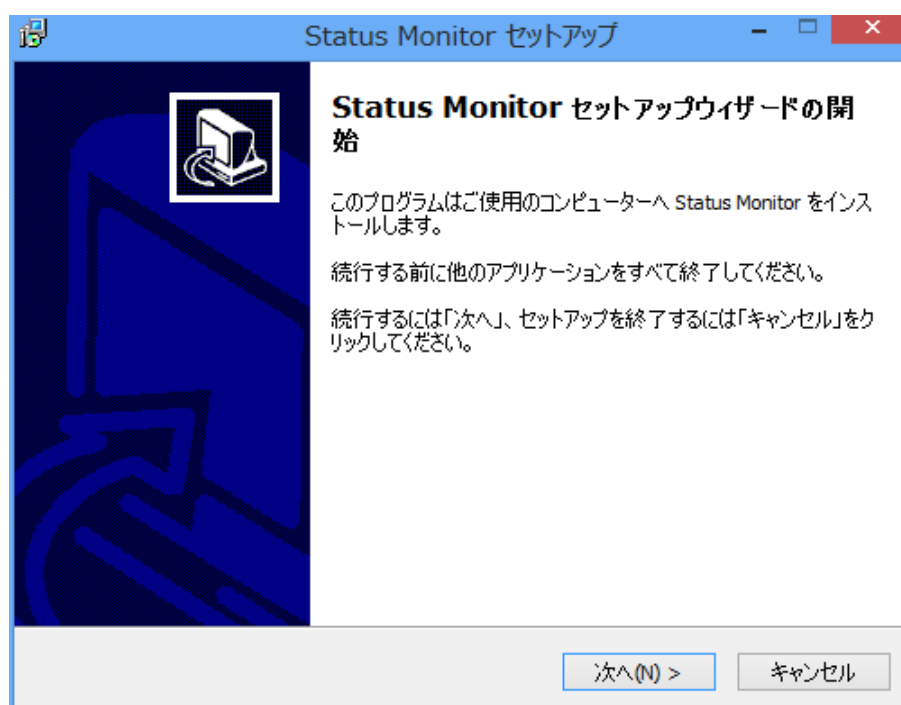
ステータスマニターの単独インストーラーを使ったインストール方法を説明します。

■ II-1-1. Status Monitor のインストール

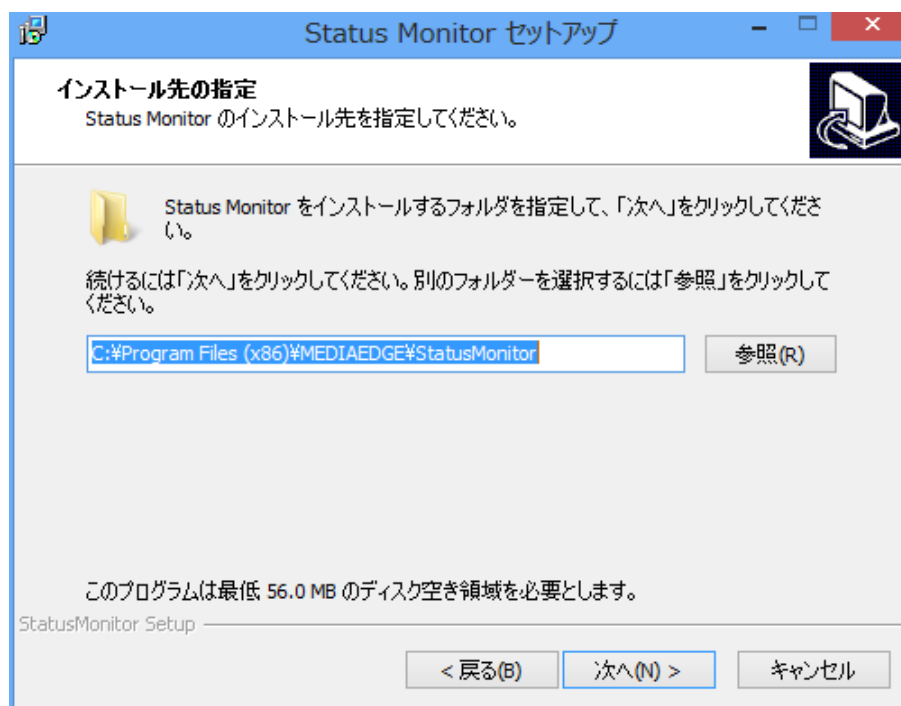
[1] StatusMonitor_Setup.exe をダブルクリックします。

※ ユーザーアカウント制御の画面が表示されましたら[はい]を選択してください。

[2] [次へ]をクリックして次の画面へ進みます。

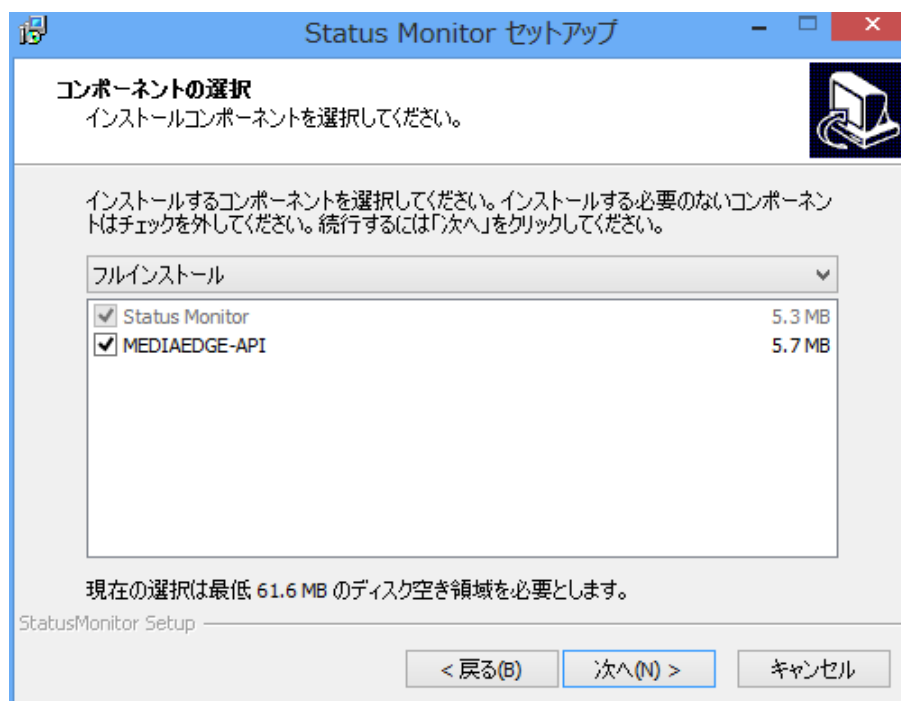


[3] インストール先のフォルダを選択し、[次へ]をクリックします。

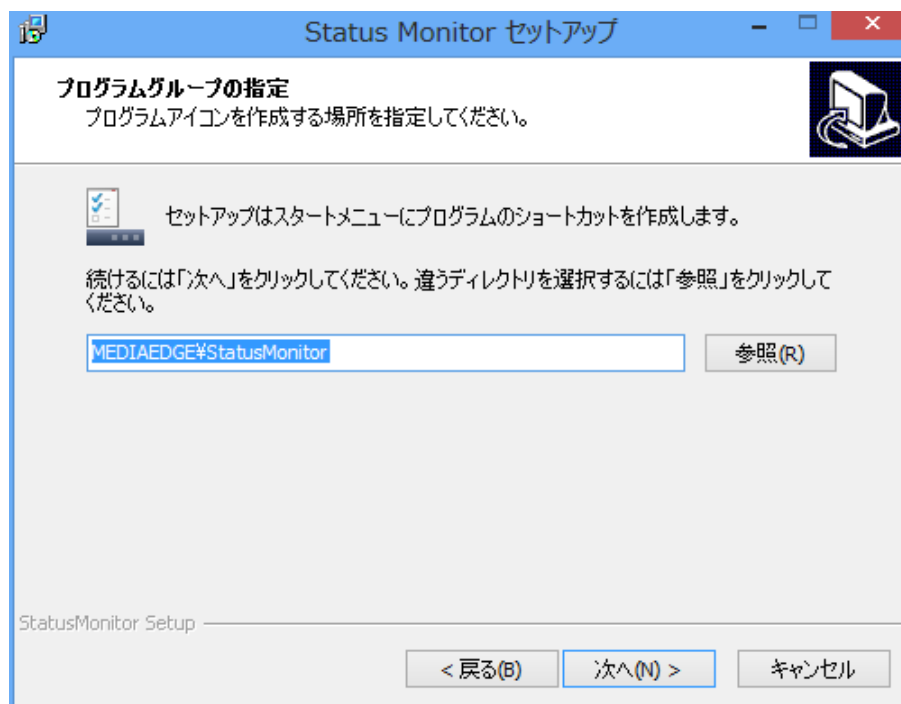


[4] インストールするコンポーネントを選択し、[次へ]をクリックします。

※ ステータスマニターをインストールするコンピュータとは別に、既に MEDIAEDGE-API がインストールされたコンピュータがある場合は MEDIAEDGE-API のチェックを外していただいても構いません。通常はそのままの状態です[次へ]を選択してください。

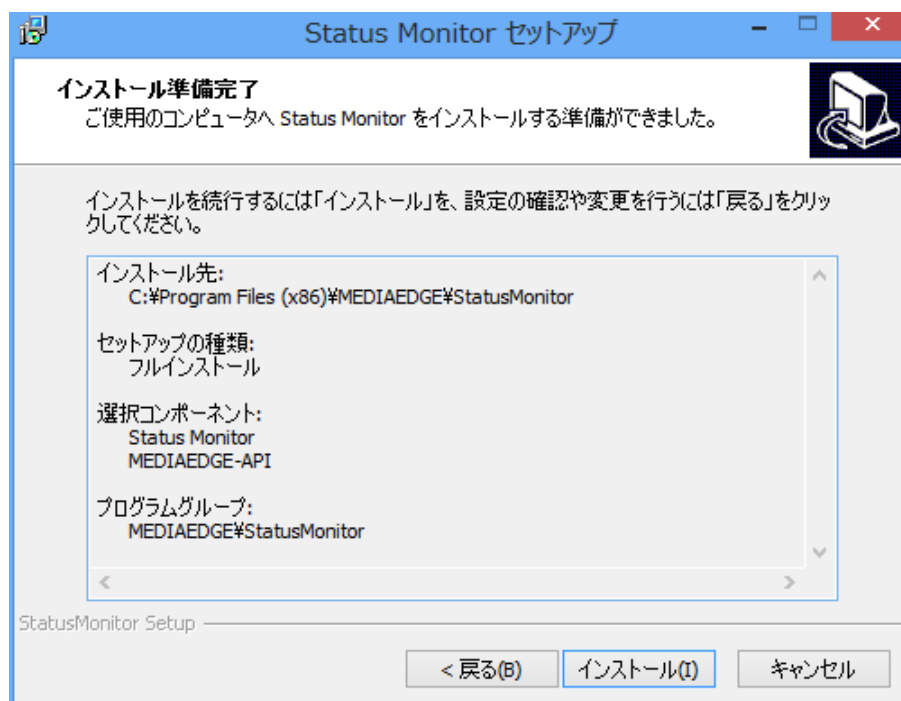


- [5] スタートメニューのショートカットの作成先を選択し、[次へ]をクリックします。



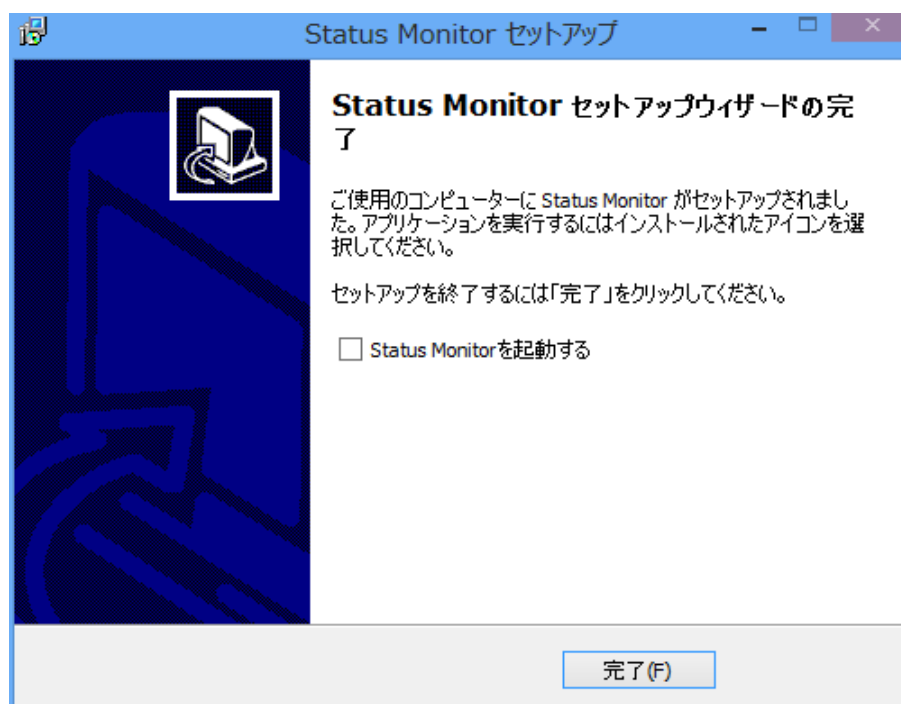
- [6] インストール構成を確認し、[インストール]をクリックします。

※ インストール完了までに数分以上の時間がかかることがあります。完了するまでお待ちください。



- [7] インストール完了したら、[完了]をクリックします。

- ※ インストーラー終了後すぐにステータスマニターを起動する場合は[Status Monitor を起動する]にチェックを入れてください。
- ※ MEDIAEDGE-API をインストールした場合は MEDIAEDGE-API 設定ツールが表示されます。次の手順に従って設定してください。(Display Content Manager からステータスマニターがインストールされた場合は MEDIAEDGE-API 設定ツールは表示されません。)



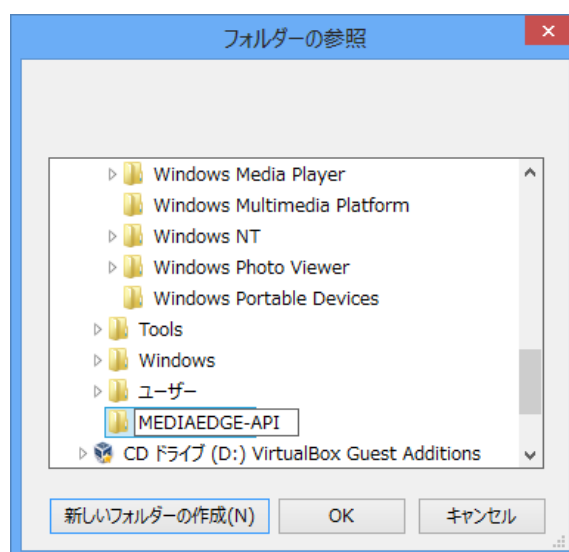
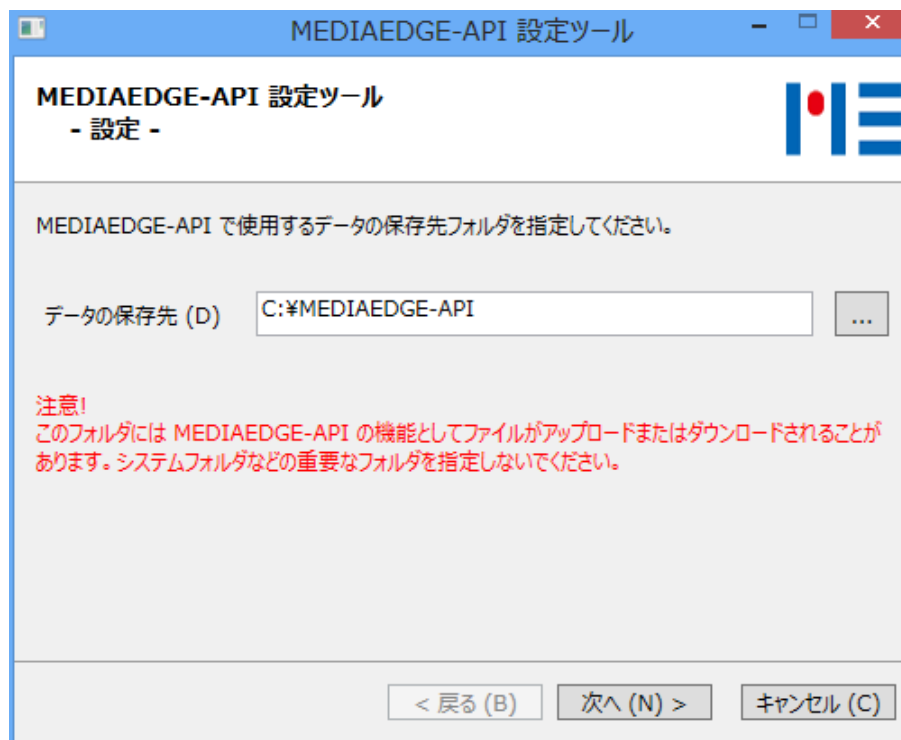
■ II-1-2. MEDIAEDGE-API 設定ツール

ステータスマニターのインストール完了後、MEDIAEDGE-API 設定ツールが表示されます。以下の手順に従って設定を行ってください。

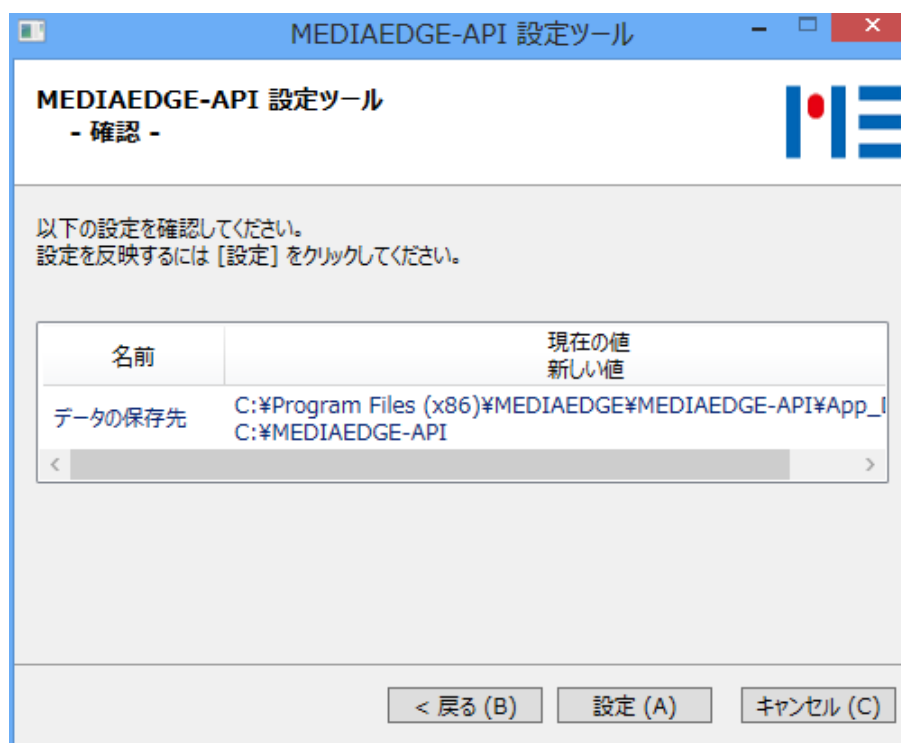
[8] データの保存先を選択し、[次へ]をクリックします。

※ このフォルダには[■ IV-7-5 ログ設定]で設定したログが保存されます。10GB 以上空きのあるドライブに適当なフォルダを作成して、指定してください。

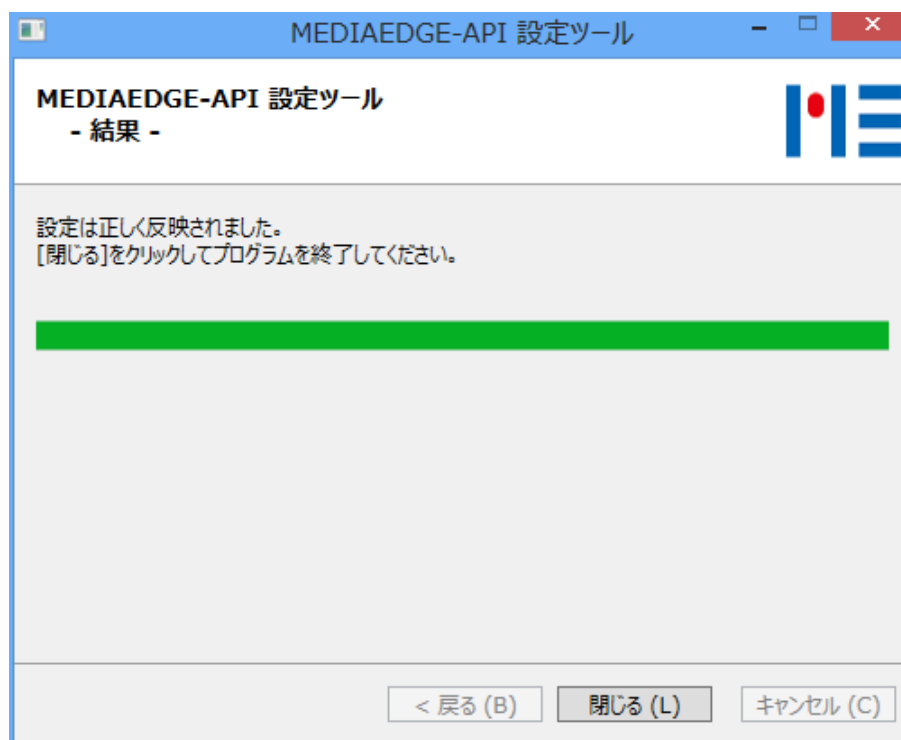
※ USB HDD ドライブなどの取り外される可能性のあるドライブは指定しないでください。



[9] データの保存先を確認し、[設定]をクリックします。



[10] 設定が完了したら、[閉じる]をクリックします。



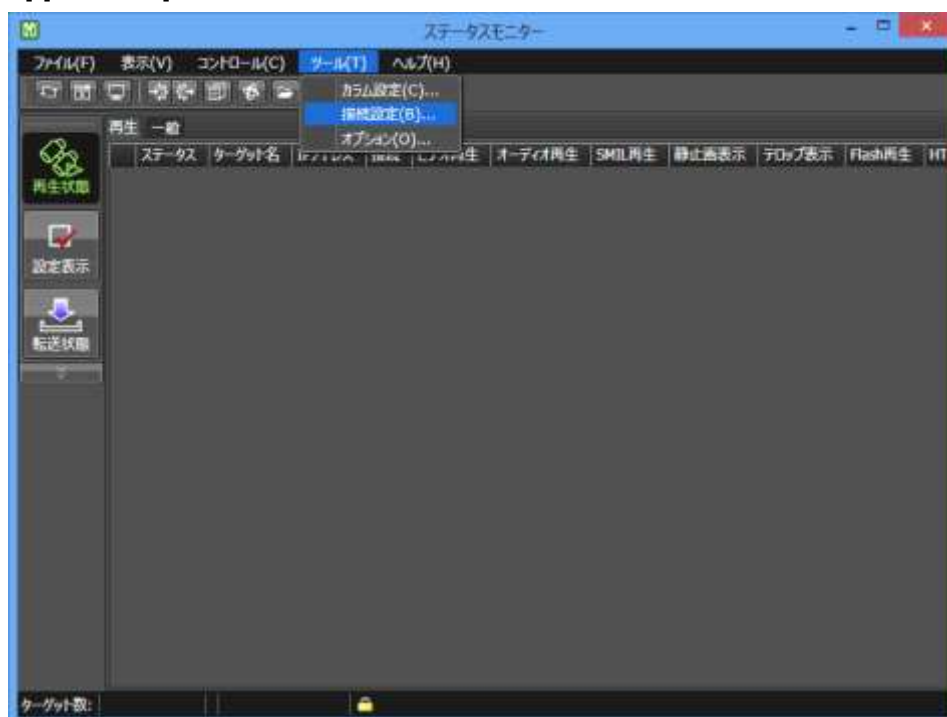
■ II-1-3. StatusMonitor 初回起動時の設定

初回起動時には、以下の設定を行ってください。

[11] デスクトップ上のショートカットをダブルクリックし、ステータスモニターを起動します。

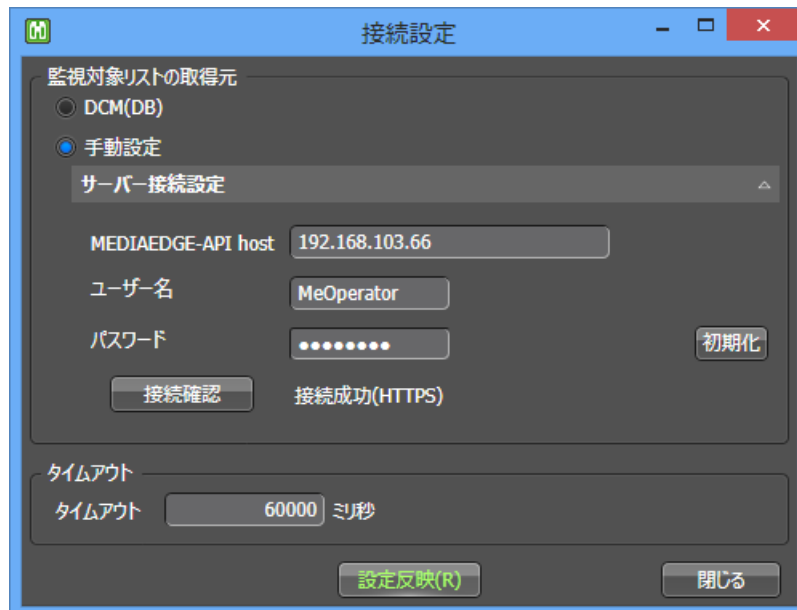


[12] [ツール]-[接続設定]をクリックします。

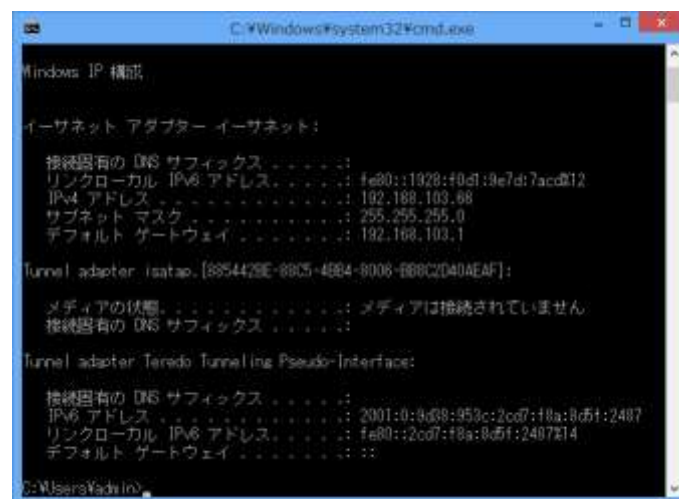


[13] [監視対象リストの取得元]の項目で[手動設定]を選択し、[MEDIAEDGE-API host]にコンピュータの IP アドレスを入力し、[接続確認]をクリックします。

- ※ DNS などによって名前解決が行えるネットワークであれば[MEDIAEDGE-API host] にコンピュータ名を入力できます。通常は IP アドレスを入力してください。
- ※ インストール直後は[接続確認]に失敗する場合があります。一度コンピュータを再起動させてから再度ご確認ください。
- ※ コンピュータ再起動後、数分間は MEDIAEDGE-API のサービスが立ち上がっておらず[接続確認]に失敗する場合があります。再起動後しばらく待ってから[接続確認]を行ってください。



- ※ コンピュータの IP アドレスが分からない場合には、コマンドプロンプトから[ipconfig]コマンドを実行するなどして調べることが出来ます。



[14] 「接続成功」と表示されたら、[設定反映]をクリックし、[閉じる]をクリックします。

- ※ [設定反映]をクリックした後に画面が白くなったまま操作が出来なくなった場合には、ステータスモニターを強制終了させるか、コンピュータを再起動させてから再度設定を行ってください。

II-2. Display Content Manager からのインストール

Display Content Manager (以下 DCM) からインストールする方法を説明します。

■ II-2-1. DCM の入手

- [1] 当社ダウンロードページより無償版の DCM Express をダウンロードするか、DCM 製品版をご購入ください。

<https://www.mediaedge.co.jp/product/display-content-manager/>

■ II-2-2. DCM のインストール

- [2] DCM Express または DCM のマニュアルに従ってインストールを行ってください。

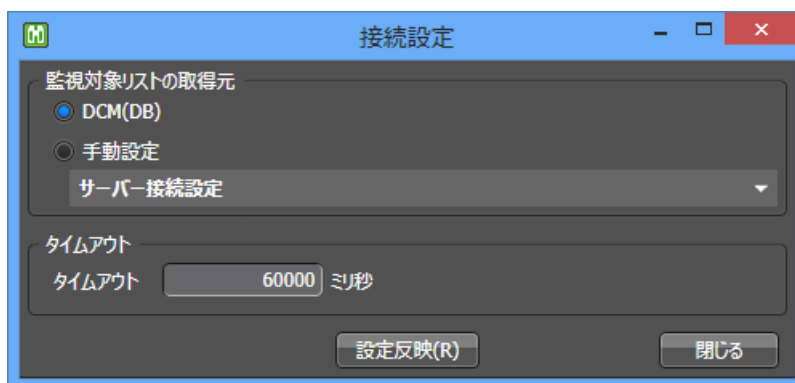
※ ステータスマニターは DCM Express または DCM のインストーラーから自動的にインストールされます。

■ II-2-3. StatusMonitor 初回起動時の設定

初回起動時には、以下の設定を確認してください。

- [3] ステータスマニターを起動し、[ツール]-[接続設定]をクリックします。

- [4] [監視対象リストの取得元]の項目で[DCM(DB)]が選択されていることを確認し、[閉じる]をクリックします。



III. ターゲットの登録

この章では、ステータスマニターへターゲットを登録する方法について説明します。ステータスマニターを単独で利用する場合と、Display Content Manager と合わせて利用する場合とで異なる操作になりますので、それぞれについて説明します。

III-1. Status Monitor を単独で利用する場合

ステータスマニターを単独で利用する場合に、ターゲットを追加する方法を説明します。

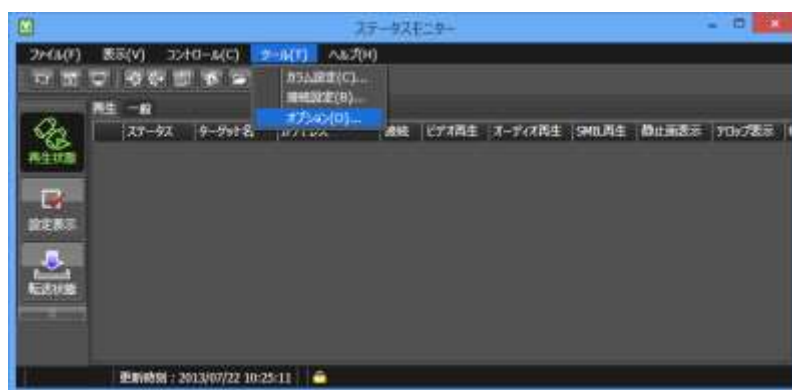
■ III-1-1. ターゲットの手動登録(Direct 接続)

IP アドレスを指定して手動登録を行います。接続種別は「Direct」接続と表示されます。

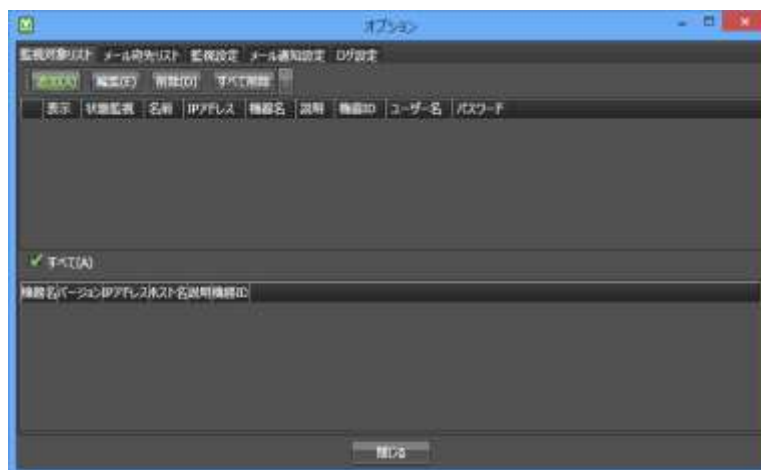
[1] [監視対象リストの取得元]が[手動設定]になっていることを確認します。

-> 確認方法は[■ II-1-3 StatusMonitor 初回起動時の設定] を参照してください。

[2] [ツール]-[オプション]をクリックします。



[3] [オプション]ウィンドウの[監視対象リスト]タブ内の[追加]をクリックします。



[4] 必要事項を入力し、[追加]をクリックします。その後、[閉じる]をクリックします。

- > IP アドレス IP アドレスを入力します。(固定 IP が必要です。)
- > 名前 表示名前を入力します。(全角文字も入力できます。)
- > 機器名 機器名を選択します。

- > 初期アカウント情報を使う 通常はチェックを入れてご使用ください。(機器側のパスワードを変更した場合には、チェックを外して[ユーザー名]、[パスワード]を入力してください。)
- > 説明 補足説明を入力します。(全角文字も入力できます。)
- > 状態監視 メール通知機能を利用する場合にチェックします。
- ※ [IP アドレス]、[名前]は他と重複しない値を設定してください。
- ※ [初期アカウント情報を使う]、[説明]、[状態監視]は登録後に編集することができます。[IP アドレス]、[名前]、[機器名]は編集できないため、一度削除してから再登録してください。

[5] 必要な台数の登録が終わったら、[オプション]ウィンドウを閉じます。

※ [オプション]ウィンドウの[監視対象リスト]タブ内の上側のリストから[表示]のチェックを外すと、一時的に非表示できます。

■ III-1-2. ターゲットの半自動登録 (Indirect 接続)

先にターゲット側を設定し、ステータスマニターに自動で表示されたものを、手動操作で本登録します。
接続種別は「Indirect」接続と表示されます。

[1] 「監視対象リストの取得元」が「手動設定」になっていることを確認します。

-> 確認方法は[■ II-1-3 StatusMonitor 初回起動時の設定]を参照してください。

[2] [MEDIAEDGE Decoder]、[USDP]の設定を行います。

※ Web ブラウザにターゲットの IP アドレスを入力し、Web コンソール画面を表示させてください。

ターゲットの IP アドレスは、MEDIAEDGE Finder などから確認できます。

-> MEDIAEDGE Decoder は、[ネットワーク]設定の[DCM との連携]を有効にしてください。

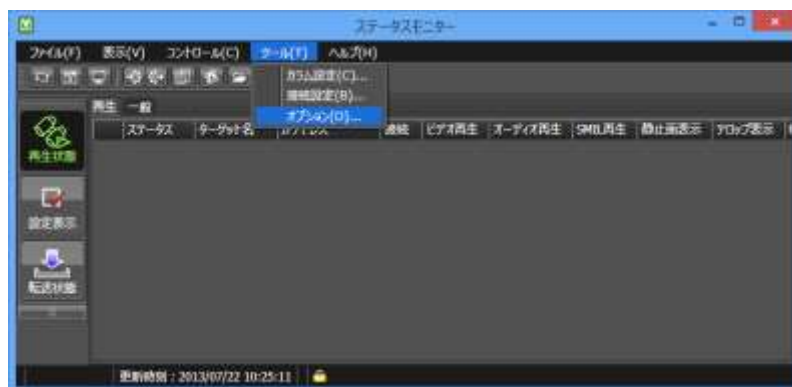
- | | |
|---------|-------------------------------------|
| ● 連携 | 有効 |
| ● ホスト名 | 手順[1]で設定した[MEDIAEDGE-API host]の値を入力 |
| ● ポート番号 | 443 |
| ● ユーザー名 | MeOperator (通常は初期値のまま動作します。) |
| ● パスワード | お問い合わせください (通常は初期値のまま動作します。) |



※ 設定が行えると[DCM サーバーとの接続]ステータスが“true”になります。



[3] [ツール]-[オプション]をクリックします。



[4] [オプション]ウィンドウの[監視対象リスト]タブ内の下側のリストから登録したいターゲットを上側のリストヘドラッグ&ドロップします。

※ 下側のリストは、手順[2]で[DCM との連携]を設定したターゲットが表示されます。



[5] 必要なターゲットの登録が終わったら、[オプション]ウィンドウを閉じます。



※ [オプション]ウィンドウの[監視対象リスト]タブ内の上側のリストから[表示]のチェックを外すと、一時的に非表示できます。

III-2. Display Content Manager と合わせて利用する場合

DCM Express または DCM と合わせて利用する場合に、ターゲットを追加する方法を説明します。

[1] [監視対象リストの取得元]が[DCM(DB)]になっていることを確認します。

-> 確認方法は[■ II-2-3 StatusMonitor 初回起動時の設定] を参照してください。

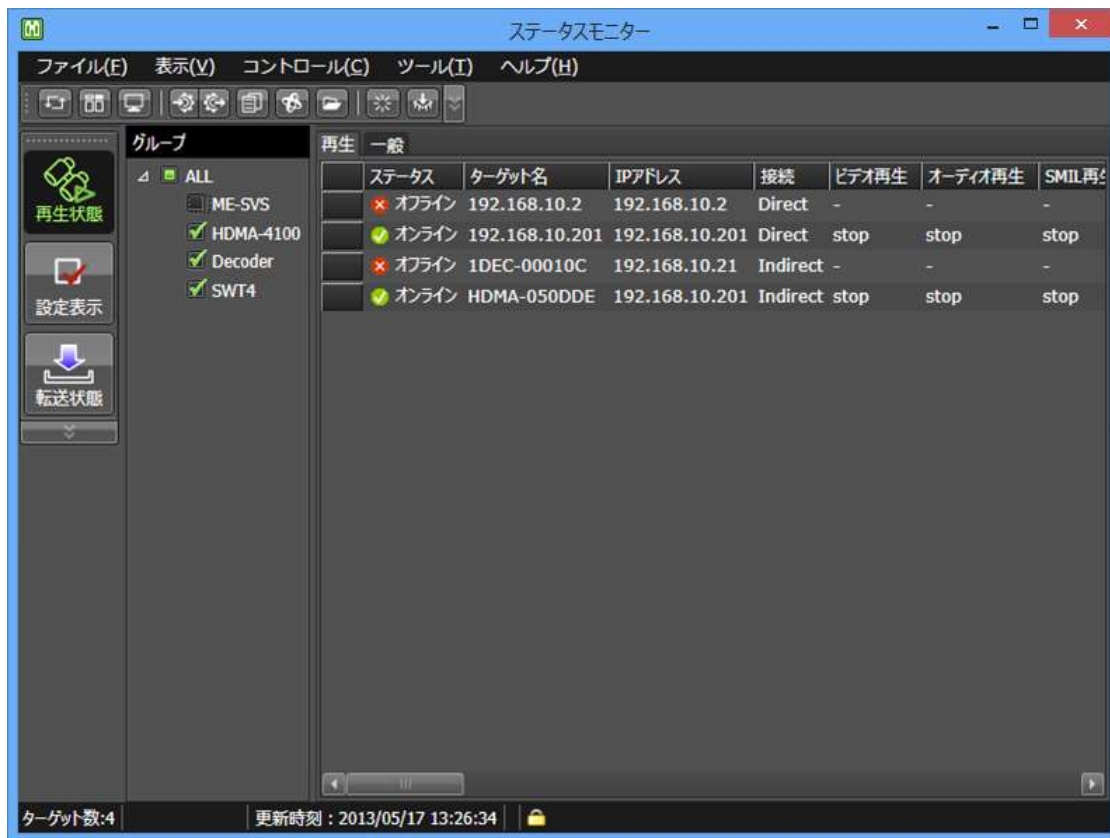
[2] DCM コンソールを起動し、ターゲット画面にて、グループを作成、ターゲットを登録します。

※ 登録方法は DCM Express または DCM のマニュアルを参照してください。

[3] ステータスマニターを起動します。

-> DCM コンソールで登録したグループおよびターゲットの一覧が自動で同期されます。

※ すでに起動している場合には、再起動させてください。



※初期状態ではグループにチェックが付いていないため、表示したいグループにチェックを入れて、キーボードの[F5]キーまたは [表示]メニューから[ステータスの更新]をクリックしてください。

IV. 操作方法

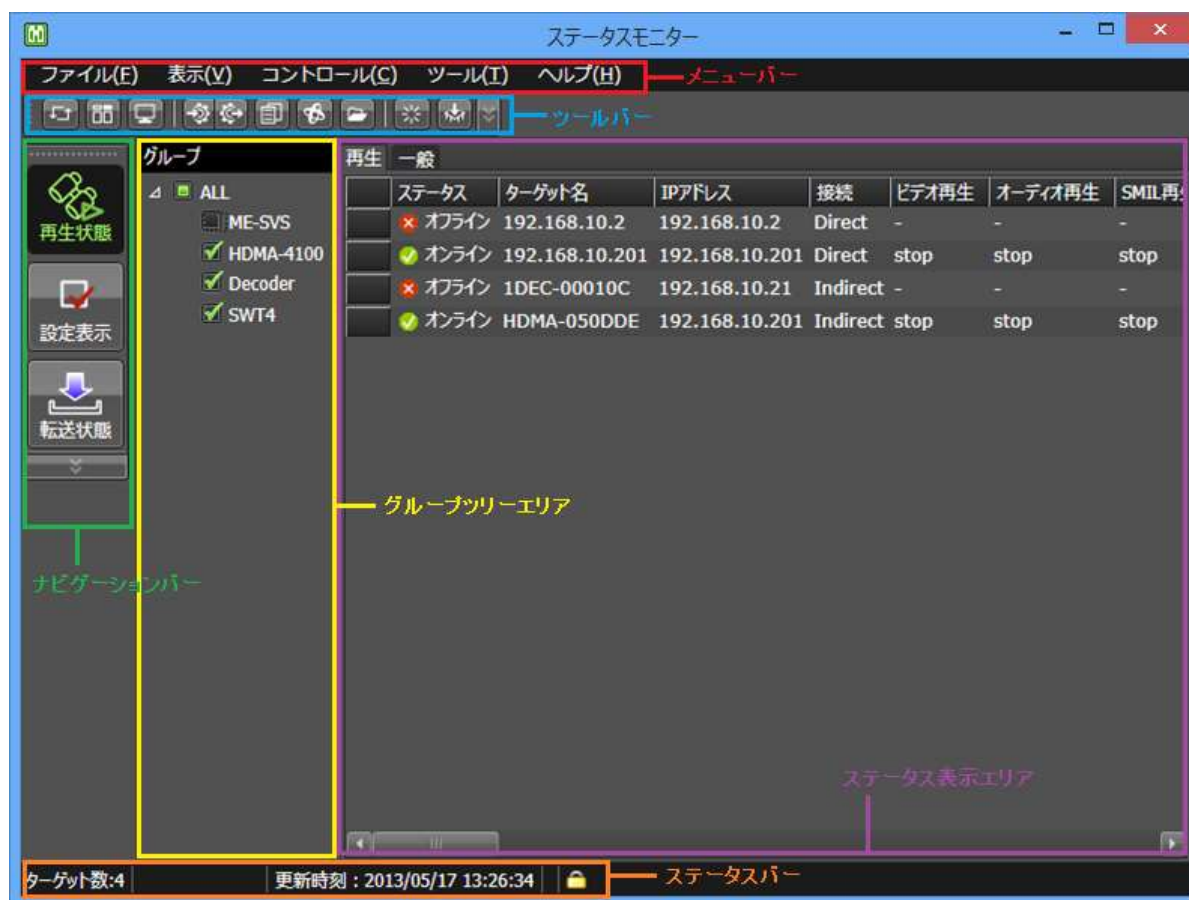
この章ではステータスマニターの操作方法について説明します。

IV-1. メイン画面

■ IV-1-1. 画面構成

画面構成を説明します。

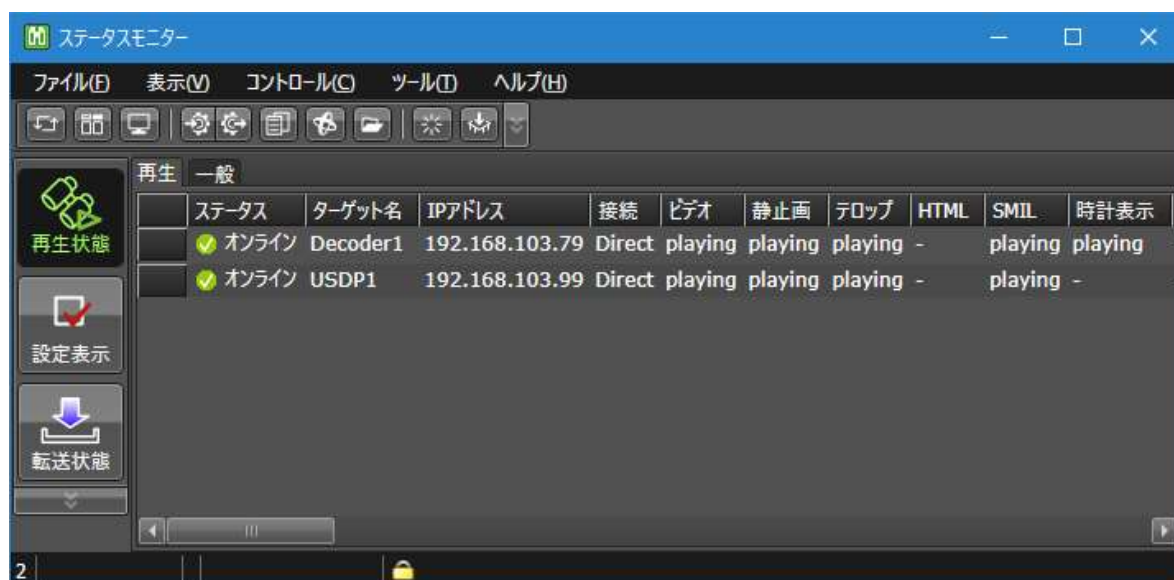
- メニューバー
 - 操作の一覧が表示されるバーで、すべての操作がここから行えます。
- ツールバー
 - よく利用する操作のショートカットボタンが表示されるバーです。
- ナビゲーションバー
 - ステータス表示エリアの種類を切り替えるためのショートカットボタンが表示されるバーです。
- グループツリーエリア
 - ターゲットのグループをツリー表示するエリアです。
 - [監視対象リストの取得元]の項目が[DCM(DB)]に設定されているときのみ表示されます。
- ステータス表示エリア
 - [再生状態]、[設定表示]、[転送状態]のいずれかのステータスを表示するエリアです。
- ステータスバー
 - 表示しているターゲット数や更新時刻などの情報を表示するバーです。



■ IV-1-2. 再生状態画面

再生状態画面では現在のステータスが2つのタブに分かれて表示されます。

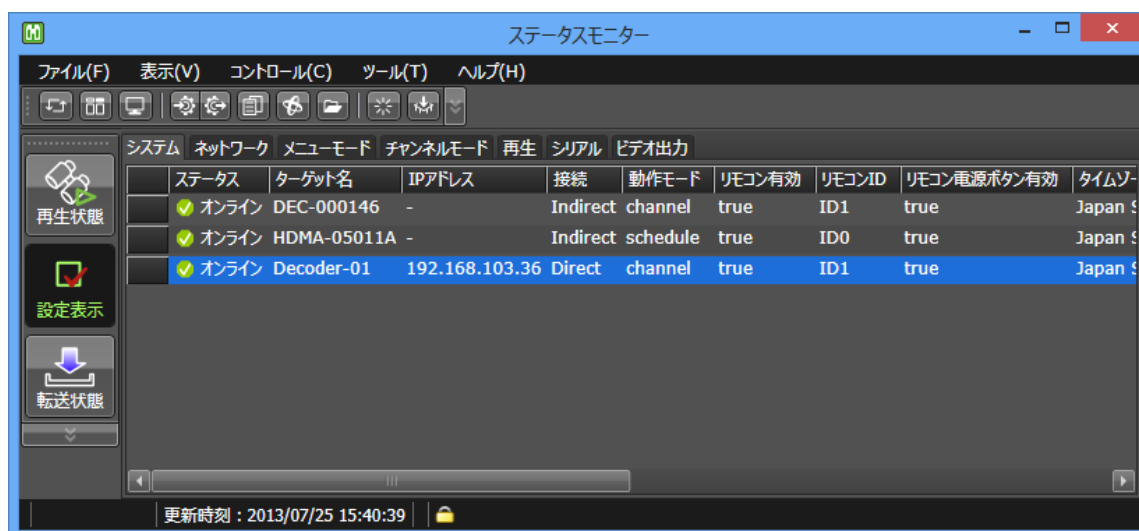
- 再生 ターゲットの状態や URI など再生に関連するステータスを表示します。
- 一般 そのほかのステータスを表示します。



■ IV-1-3. 設定表示画面

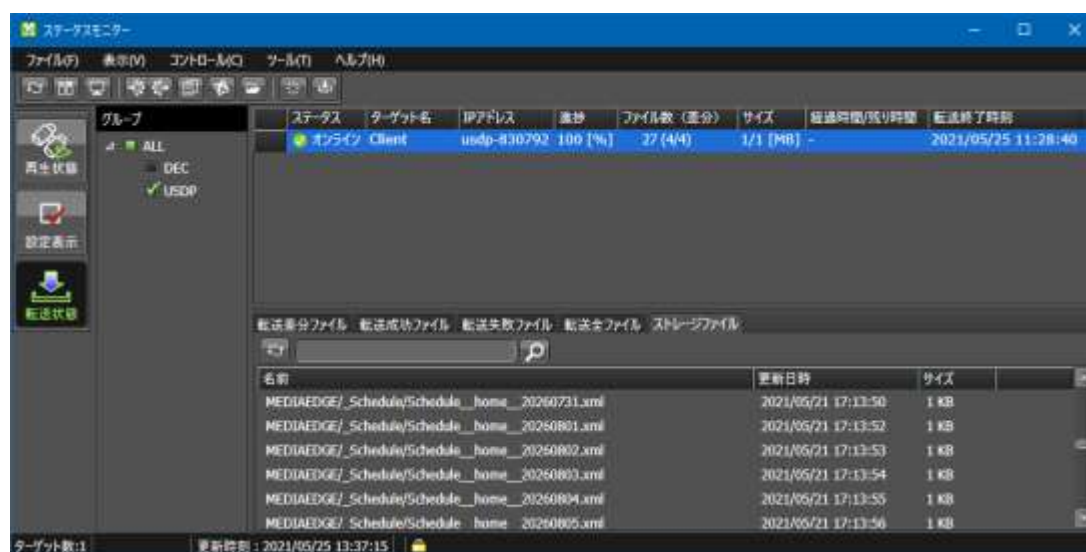
設定表示画面ではターゲットの設定値が7つのタブに分かれて表示されます。

- システム ターゲットの基本設定を表示します。
- ネットワーク ネットワークに関連する設定を表示します。
- メニューモード メニューモード動作に関する設定を表示します。
- チャンネルモード チャンネル番号の割り当て(タイトル、URL)設定を表示します。
- 再生 再生中の動作に関する設定を表示します。
- シリアル シリアル制御モード動作に関する設定を表示します。
- ビデオ出力 ビデオ出力信号に関する設定を表示します。



■ IV-1-4. 転送状態画面

転送状態画面では、DCM Express または DCM などから更新を行った際の進捗状況が表示されます。また下段には、選択したターゲットの転送ファイルのリストを表示します。



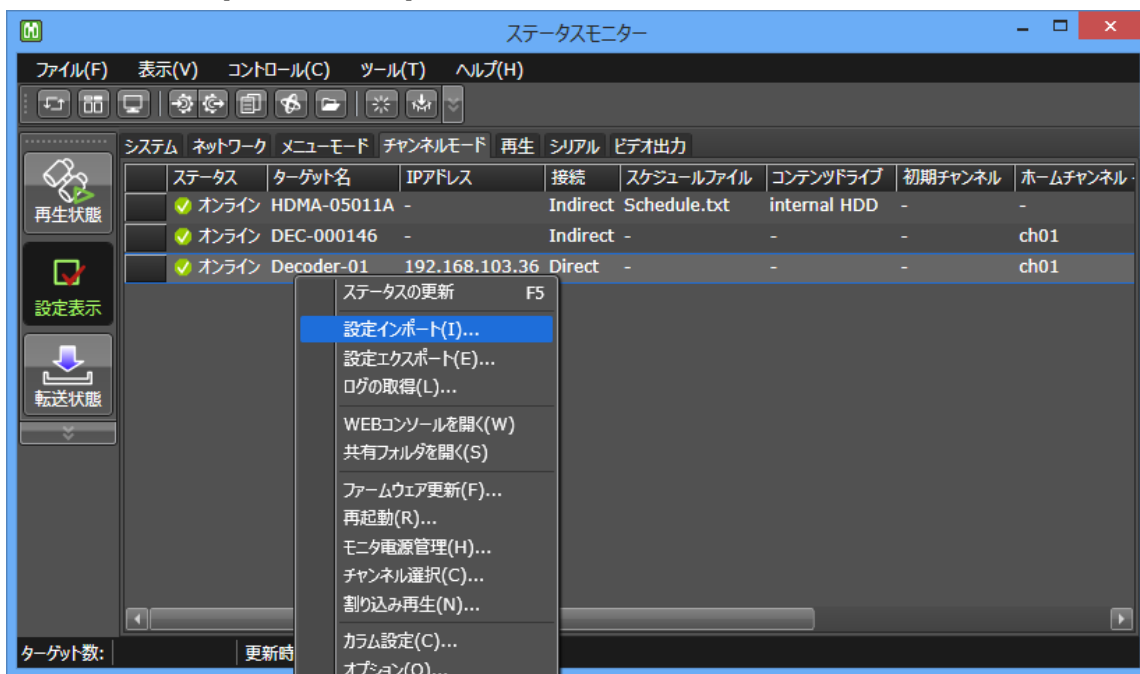
DCM では同じファイルは送らず差分のみを送ります。必ず 1 つは差分ファイルがあります。

IV-2. ファイルメニュー

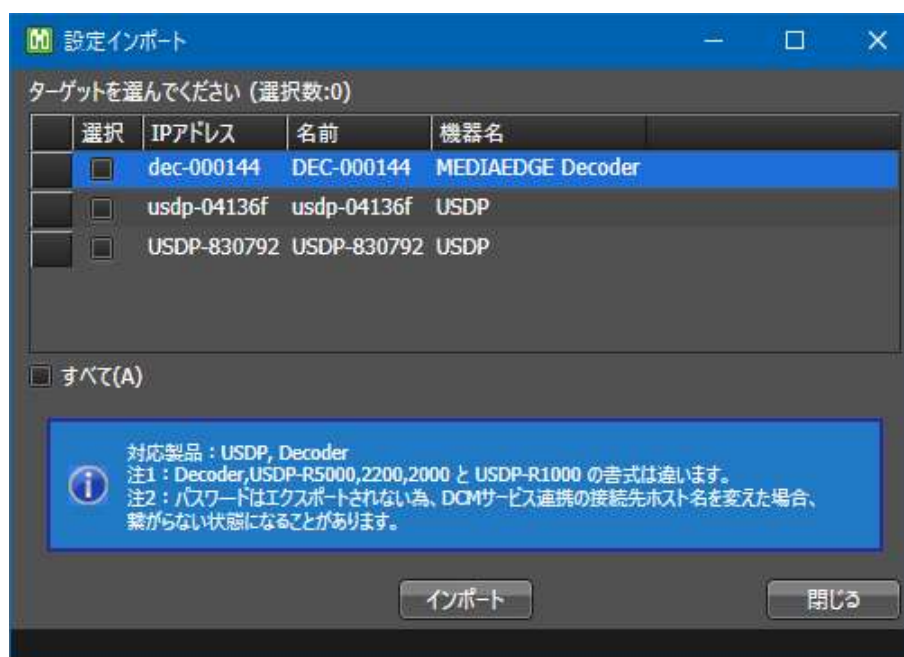
■ IV-2-1. 設定インポート

設定エクスポートで出力した設定ファイルを読み込み、ターゲットに設定を行います。

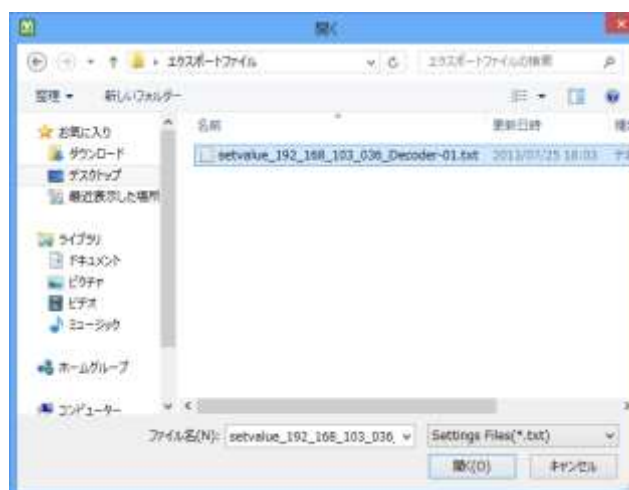
- [1] メニューバーから[ファイル]-[設定インポート]をクリックします。
 または、ツールバーから[設定インポート]ボタンをクリックします。
 または、ステータス表示エリア内のターゲットを選択し(Shift キーまたは Ctrl キーを押しながらクリックすると複数ターゲットを選択できます)、選択したターゲット上で右クリックして表示されるコンテキストメニューから[設定インポート]をクリックします。



- [2] ターゲットにチェックを入れ、[インポート]をクリックします。
 ※ オンライン表示以外のターゲットに対しての操作は失敗します。

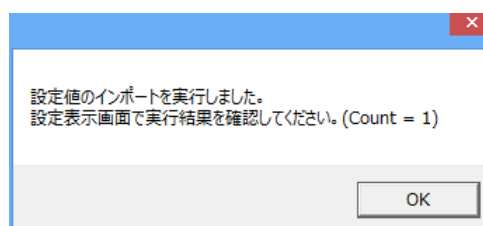


[3] インポートする設定ファイルを選択し、[開く]をクリックします。



[4] 操作の実行結果が表示されます。

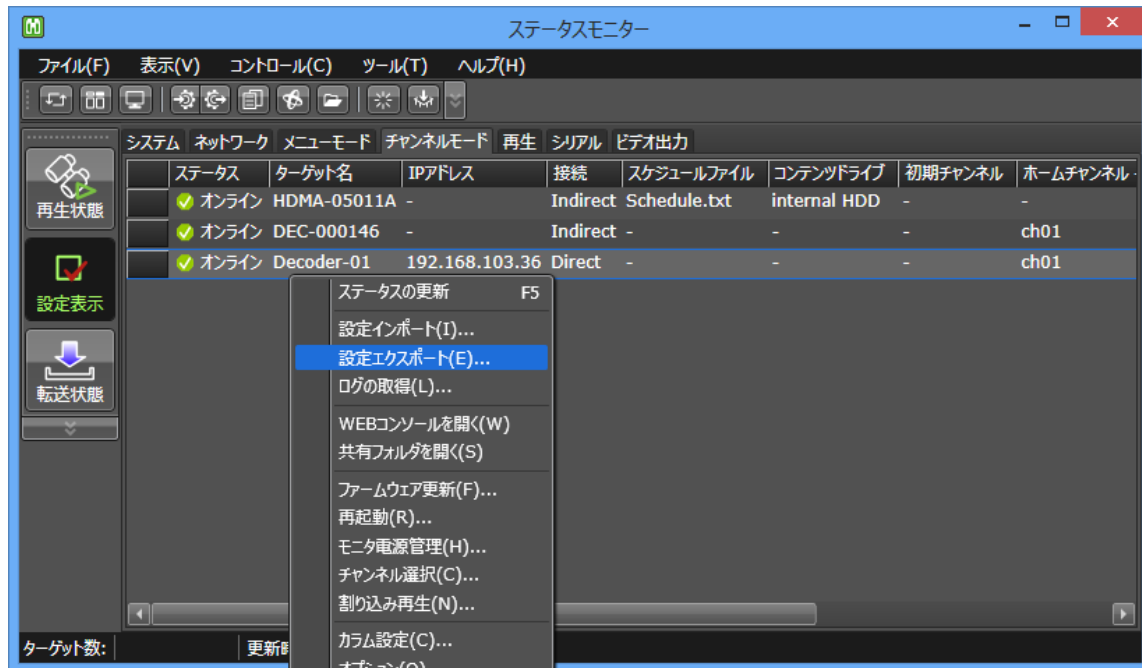
※ 再起動が必要な設定値が変更されたターゲットは自動で再起動します。再起動中はステータスの取得ができないため、しばらくしてから設定表示画面を確認してください。



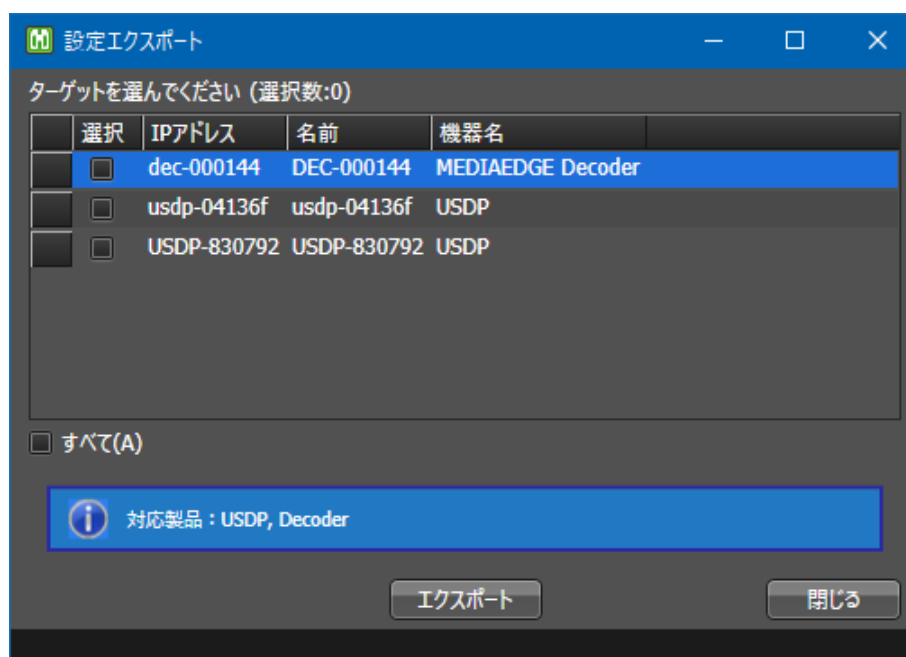
■ IV-2-2. 設定エクスポート

ターゲットの設定値を取得しファイルとして保存します。

- [1] メニューバーから[ファイル]-[設定エクスポート]をクリックします。
 または、ツールバーから[設定エクスポート]ボタンをクリックします。
 または、ステータス表示エリア内のターゲットを選択し(Shift キーまたは Ctrl キーを押しながらクリックすると複数ターゲットを選択できます)、選択したターゲット上で右クリックして表示されるコンテキストメニューから[設定エクスポート]をクリックします。

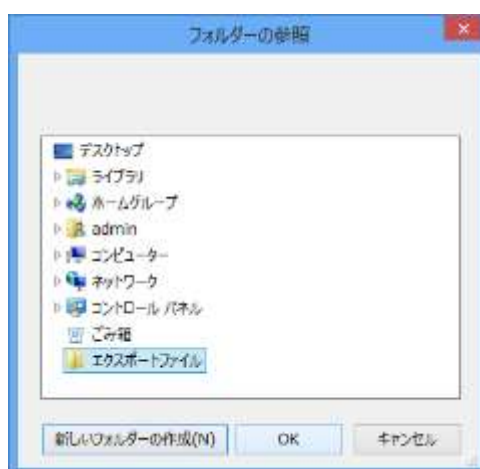


- [2] ターゲットにチェックを入れ、[エクスポート]をクリックします。
- ※ この操作に対応しているターゲットのみが一覧で表示されます。
 - ※ オンライン表示以外のターゲットに対しての操作は失敗します。

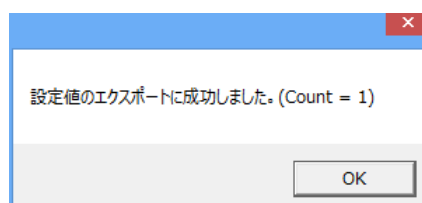


[3] エクスポートするフォルダを選択し、[OK]をクリックします。

※ フォルダ内に「setvalue_(識別子)_(ターゲット名).txt」という名前のファイルが保存されます。
識別子の部分には IP アドレスまたは MAC アドレスが入ります。



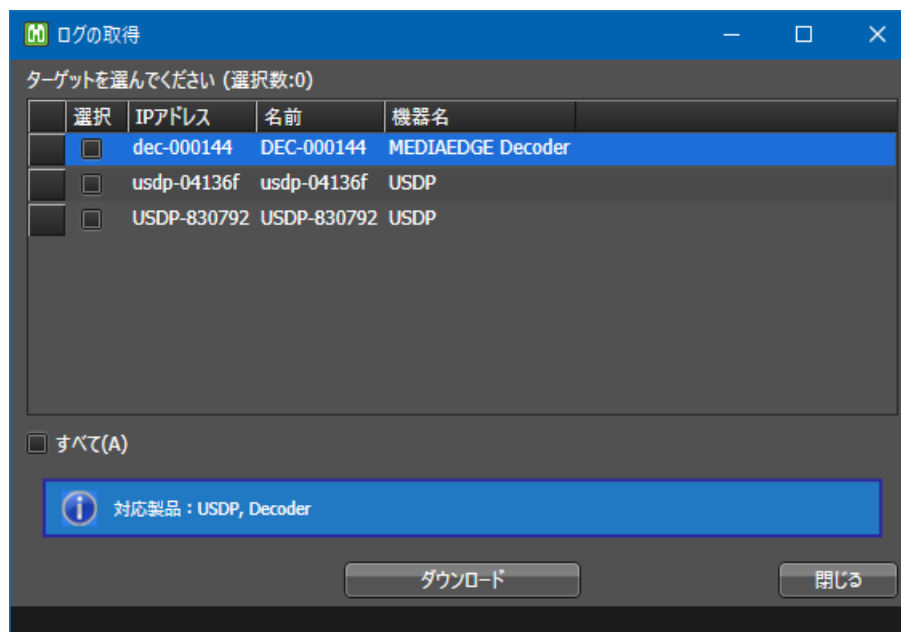
[4] 操作の実行結果が表示されます。



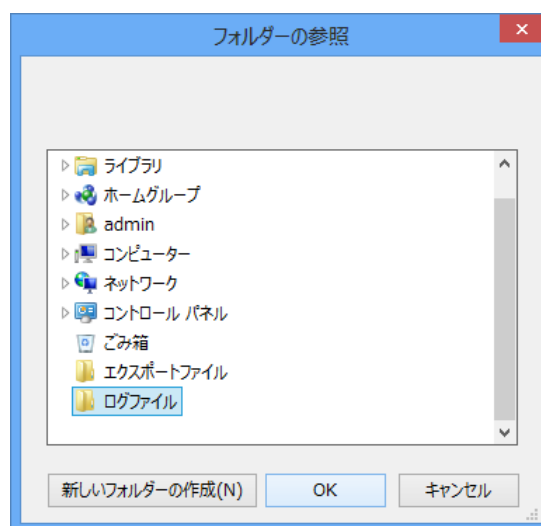
■ IV-2-3. ログの取得

ターゲットの動作ログをテキストファイルとして取得します。

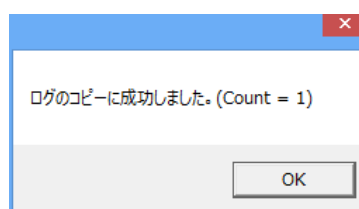
- [1] メニューバーから[ファイル]-[ログの取得]をクリックします。
 または、ツールバーから[ログの取得]ボタンをクリックします。
 または、ステータス表示エリア内のターゲットを選択し（Shift キーまたは Ctrl キーを押しながらクリックすると複数ターゲットを選択できます）、選択したターゲット上で右クリックして表示されるコンテキストメニューから[ログの取得]をクリックします。
- [2] ターゲットにチェックを入れ、[ダウンロード]をクリックします。
 ※ この操作に対応しているターゲットのみが一覧で表示されます。
 ※ オンライン表示以外のターゲットに対しての操作は失敗します。



- [3] ダウンロードするフォルダを選択し、[OK]をクリックします。
 ※ フォルダ内に「log_(識別子)_(ターゲット名).txt」という名前のファイルが保存されます。識別子の部分には IP アドレスまたは MAC アドレスが入ります（MAC アドレスを使ってアクセスしているわけではありません）



[4] 操作の実行結果が表示されます。



■ IV-2-4. 閉じる

ステータスマニターを終了させます。

- [1] メニューバーから[ファイル]-[閉じる]をクリックします。
または、ウィンドウ右上の[閉じる]ボタンをクリックします。

IV-3. 表示メニュー

■ IV-3-1. ステータスの更新

ターゲットの状態を取得し、ステータス表示エリアの表示を更新します。

- メニューバーから[表示]-[ステータスの更新]をクリックします。
または、ツールバーから[ステータスの更新]ボタンをクリックします。
または、ステータス表示エリア内のターゲット上で右クリックして表示されるコンテキストメニューから[ステータスの更新]をクリックします。
- ステータスバーに[進捗バー]が表示され、全ての更新が完了すると[更新時刻]が更新されます。

■ IV-3-2. 最新の情報に更新

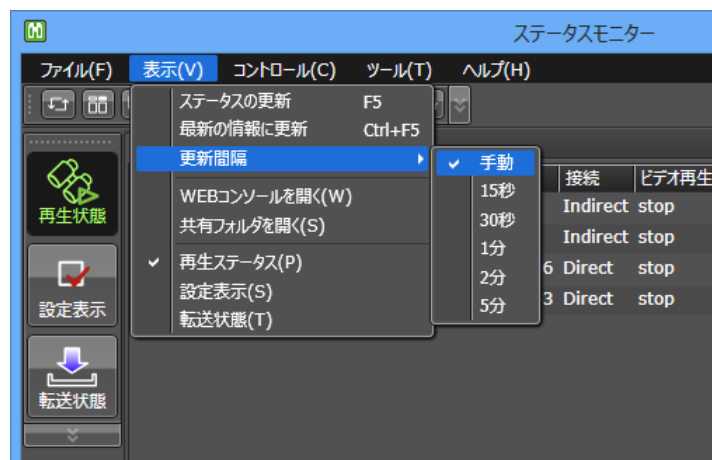
[監視対象リストの取得元]が[DCM(DB)]になっているとき、DCM コンソールのターゲット一覧を再読み込みします。

- [1]** メニューバーから[表示]-[最新の情報に更新]をクリックします。
または、ステータスマニターを一度終了し、再度起動します。

■ IV-3-3. 更新間隔

ステータスの更新を行う間隔を選択します。

- [1]** メニューバーから[表示]-[更新間隔]をクリックし、選択したい間隔をクリックします。
- | | |
|--------------------------|--------------------------|
| -> 手動 | 自動でのステータスの更新を行いません。 |
| -> 15 秒、30 秒、1 分、2 分、5 分 | 指定間隔ごとに自動でステータスの更新を行います。 |



※ 自動でステータスの更新を行う場合、間隔が短いと表示が完了する前に次の更新が開始されてしまう場合があります。その場合には、より長い間隔を選択するようにしてください。

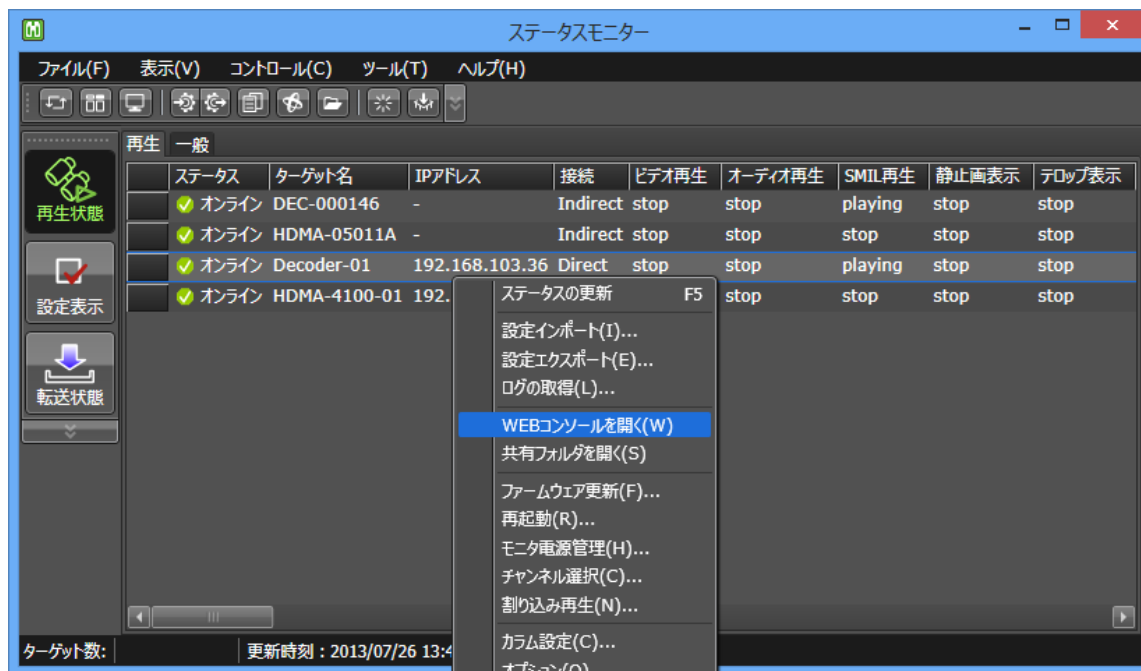
■ IV-3-4. WEB コンソールを開く

ターゲットの WEB コンソールをコンピュータのデフォルトブラウザで表示します。

[1] メニューバーから[表示]-[WEB コンソールを開く]をクリックします。

または、ツールバーから[WEB コンソールを開く]ボタンをクリックします。

または、ステータス表示エリア内のターゲットを選択し(Shift キーまたは Ctrl キーを押しながらクリックすると複数ターゲットを選択できます)、選択したターゲット上で右クリックして表示されるコンテキストメニューから[WEB コンソールを開く]をクリックします。



※ ターゲットを1台も選択していない場合、手順[2]へ進みます。1 台以上のターゲットを選択している場合、手順[3]へ進みます。

[2] ターゲットにチェックを入れ、[OK]をクリックします。

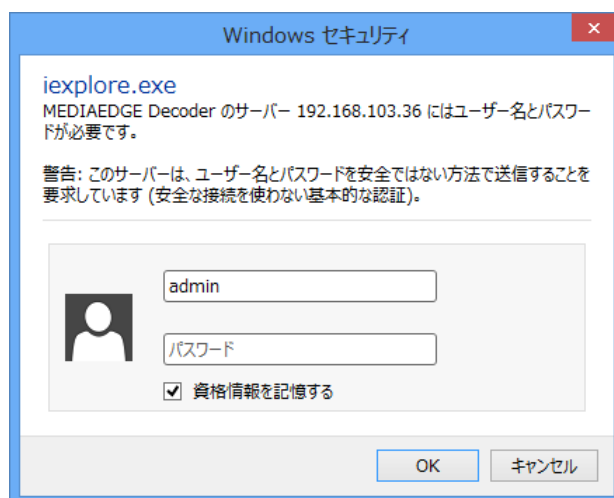
※ この操作に対応しているターゲットのみが一覧で表示されます。

※ オフライン表示のターゲットに対しての操作は失敗します。



[3] デフォルトのブラウザで WEB コンソールが開きます。

※ 表示前に資格情報の入力が必要な場合があります。ユーザー名とパスワードを入力し、[OK] をクリックします。



■ IV-3-5. 共有フォルダを開く

ターゲットの共有フォルダを表示します。

[1] メニューバーから[表示]-[共有フォルダを開く]をクリックします。

または、ターゲットを選択し、右クリックのメニューから[共有フォルダを開く]をクリックします。

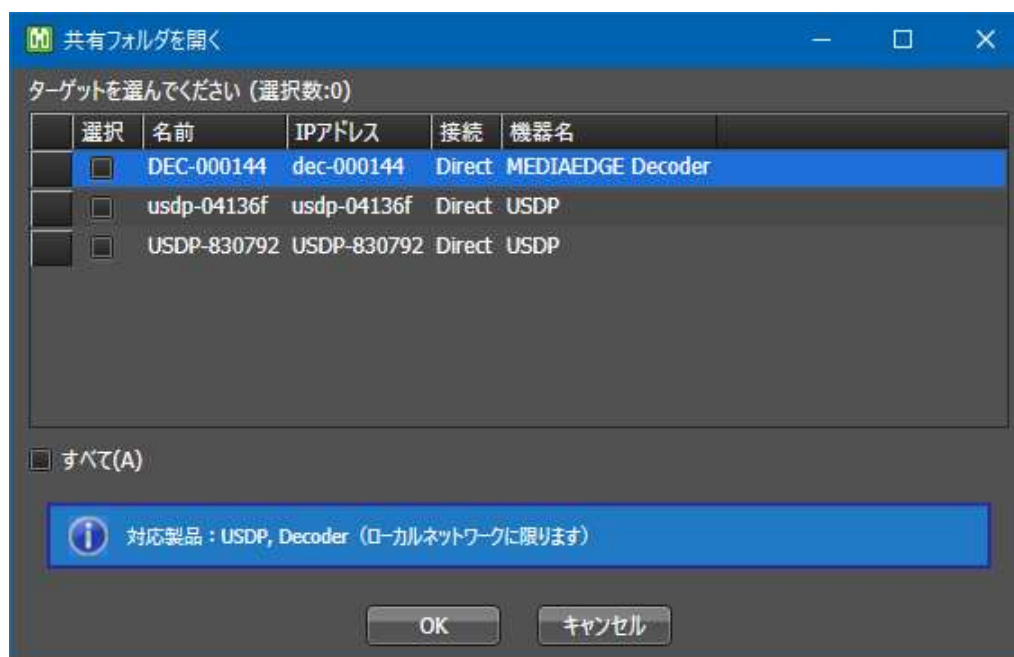


※ ターゲットを1台も選択していない場合、手順[2]へ進みます。1 台以上のターゲットを選択している場合、手順[3]へ進みます。

[2] ターゲットにチェックを入れ、[OK]をクリックします。

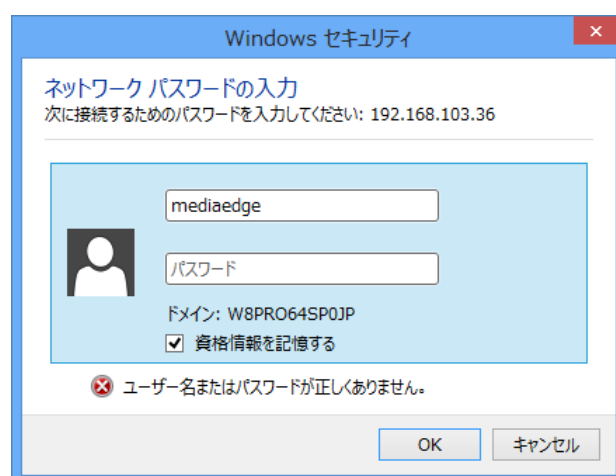
※ この操作に対応しているターゲットのみが一覧で表示されます。

※ オンライン表示以外のターゲットに対しての操作は失敗します。



[3] エクスプローラで共有フォルダが開きます。

※ 表示前に資格情報の入力が必要な場合があります。ユーザー名とパスワードを入力し、[OK]をクリックします。



■ IV-3-6. ステータス表示エリアを切り替える

ステータス表示エリアに表示する画面を切り替えます。

[1] メニューバーから[表示]から[再生ステータス]、[設定表示]、[転送状態]のいずれかのメニューをクリックします。

または、ナビゲーションバーから[再生状態]、[設定表示]、[転送状態]のいずれかのボタンをクリックします。

IV-4. コントロールメニュー

■ IV-4-1. ファームウェア更新

ターゲットのファームウェアを更新します。

[1] メニューバーから[コントロール]-[ファームウェア更新]をクリックします。または、選択したターゲット上で右クリックして表示されるコンテキストメニューから[ファームウェア更新]をクリックします。

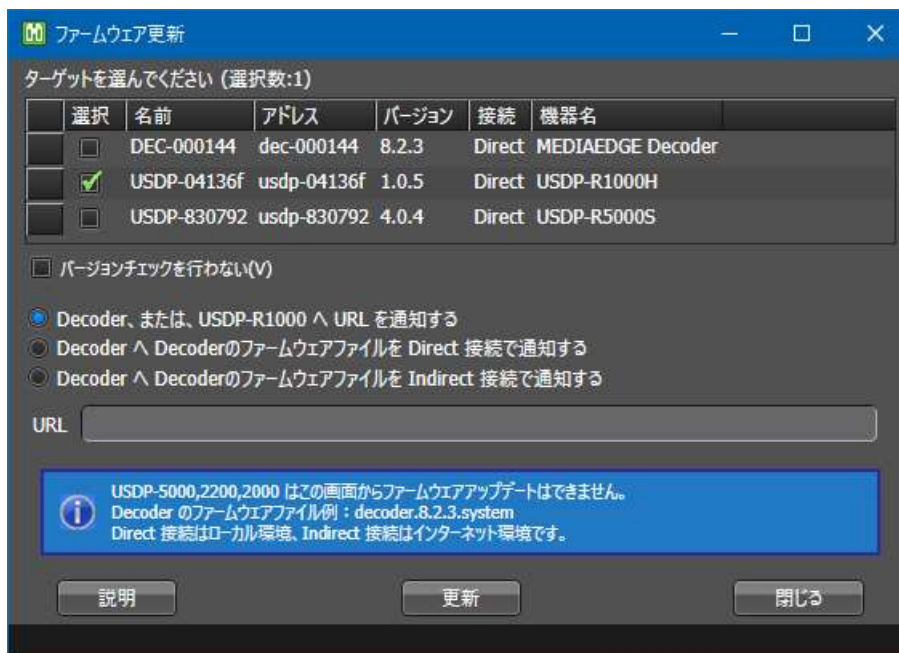
[2] ターゲットにチェックを入れ、ファームウェア更新方法を3つの中から選択します。ファームウェアファイルを指定し、[更新]をクリックします。

-> 一度に更新できるのは5台までです。

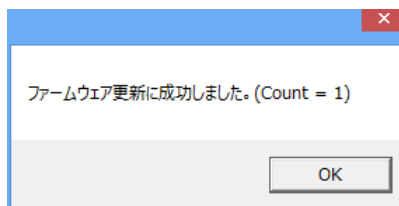
-> それぞれの更新方法については後述の説明を参照してください。

-> [バージョンチェックを行わない]にチェックを入れると現在よりも古いバージョンへ更新することができます。(古いバージョンへ戻す際には制限事項がある可能性がありますので、ファームウェアの説明を確認してください)

※ オンライン表示以外のターゲットに対しての操作は失敗します。



[3] 操作の実行結果が表示されます。



以下ではそれぞれの更新方法について説明します。更新したいターゲットの製品種別やネットワーク環

境に合わせて適切な更新方法を選択してください。

IV-4-1-1. Decoder、または、USDP-R1000 へ URL を通知する

対応製品: Decoder, USDP-R1000

予めファームウェアファイルを配置した URL からダウンロードさせて更新します。

- [ツール] [接続設定] が DCM の場合の URL 例
ftp://MeDcmUser:7ujM6yhN@192.168.1.1/dcm/firm/usdp_r1000_1.0.5.system
・C:¥DCM, D:¥DCM に firm フォルダを作成してファームウェアファイルを置いてください。
ftp, http, https が使えます。
- [ツール] [接続設定] が手動設定の場合の URL 例
http://MeOperator:!QAZxdr5@192.168.1.1/mediaedge_api/usdp_r1000_1.0.5.system
・C:¥Program Files (x86)¥MEDIAEDGE¥MEDIAEDGE-API にファームウェアファイルを置いてください。
http, https が使えます。

IV-4-1-2. Decoder へ Decoder のファームウェアファイルを Direct 接続で通知する

対応製品: Decoder のみ

ステータスモニターからターゲットに直接ファームウェアファイルを送信して更新します。

[参照]ボタンをクリックし、ファームウェアファイルを選択します。

ファイル例 decoder.8.2.3.system

IV-4-1-3. Decoder へ Decoder のファームウェアファイルを Indirect 接続で通知する

対応製品: Decoder のみ

指定したファームウェアファイルを MEDIAEDGE-API サーバーにアップロードしたのち、ターゲットにダウンロードさせて更新します。

[参照]ボタンをクリックし、ファームウェアファイルを選択します。

ファイル例 decoder.8.2.3.system

注意事項

- USDP-R5000,R2200,R2000 はステータスモニターからファームウェアアップデートはできません。本体を直接操作してファームウェアアップデートを行ってください。
- Decoder と USDP-R1000 はファームウェアファイルが違います。同じ URL を使用することはできません。

■ IV-4-2. 電源管理

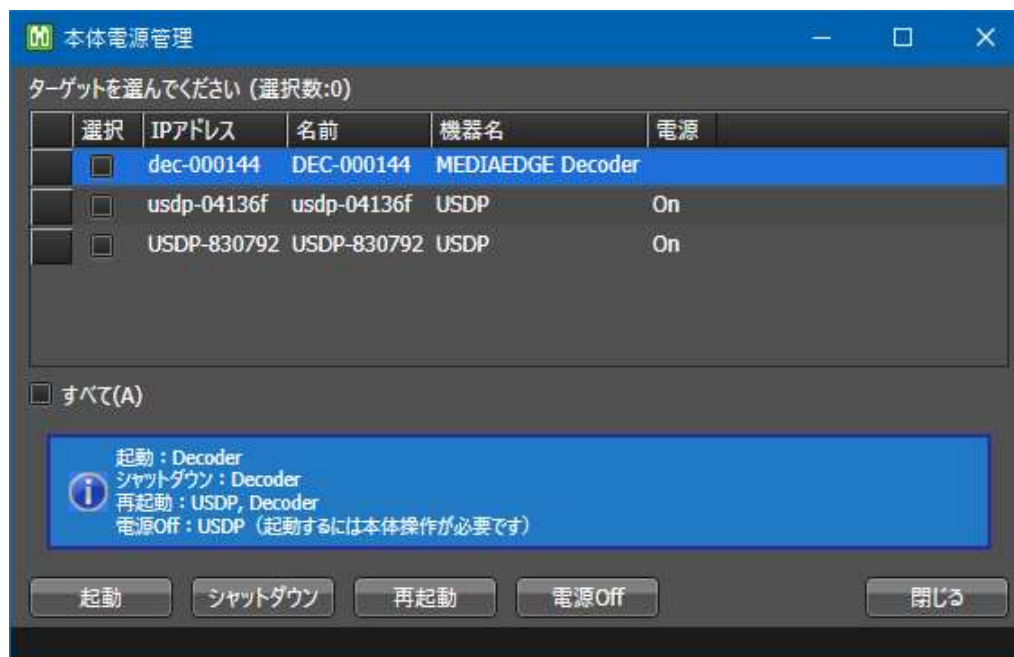
ターゲットの起動またはシャットダウン操作を行います。

[1] メニューバーから[コントロール]-[電源管理]をクリックします。

予めステータス表示エリア内のターゲットを選択しておくことができます (Shift キーまたは Ctrl キーを押しながらクリックすると複数ターゲットを選択できます)

[2] ターゲットにチェックを入れ、[起動]または[シャットダウン]をクリックします。

※ オフライン表示のターゲットに対しての操作は失敗します。

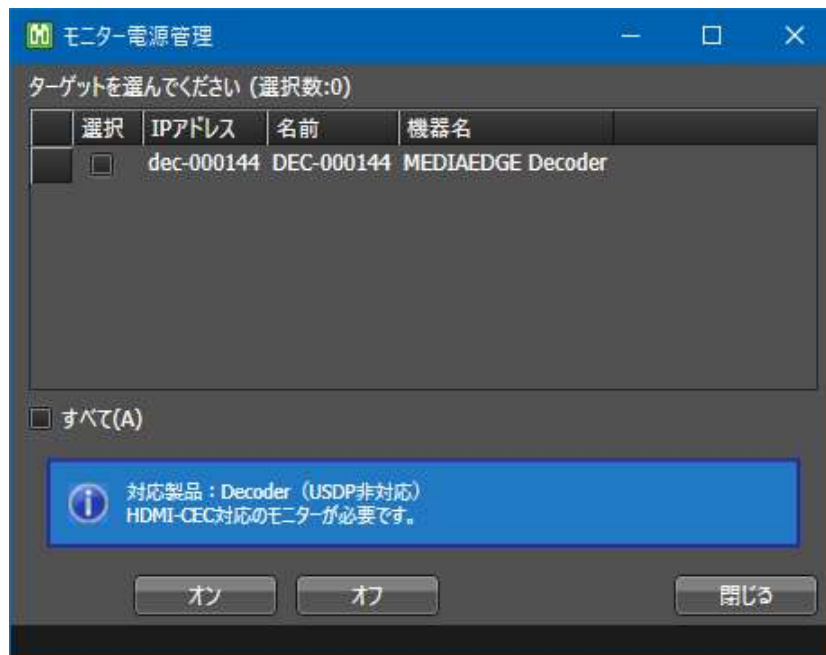


機能	製品	説明
起動	Decoder	シャットダウン状態のものを起動できます。
シャットダウン	Decoder	電源は入っているが停止している状態です。電源ランプがオレンジ色になります。リモコンの電源ボタンと同等の機能です。
再起動	USDP, Decoder	再起動を行います。
電源 Off	USDP	起動するには本体の直接操作が必要になります。

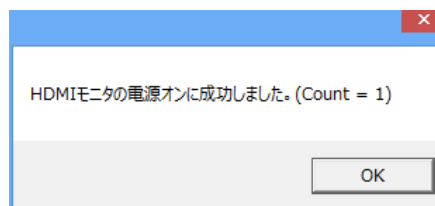
■ IV-4-3. モニター電源管理

ターゲットに HDMI 接続されているテレビモニター電源のオンまたはオフ操作を行います。

- [1] メニューバーから[コントロール]-[モニター電源管理]をクリックします。
または、選択したターゲット上で右クリックして表示されるコンテキストメニューから[モニター電源管理]をクリックします。
- [2] ターゲットにチェックを入れ、[オン]または[オフ]をクリックします。
※ この操作に対応しているターゲットのみが一覧で表示されます。
※ オンライン表示以外のターゲットに対しての操作は失敗します。



- [3] 操作の実行結果が表示されます。



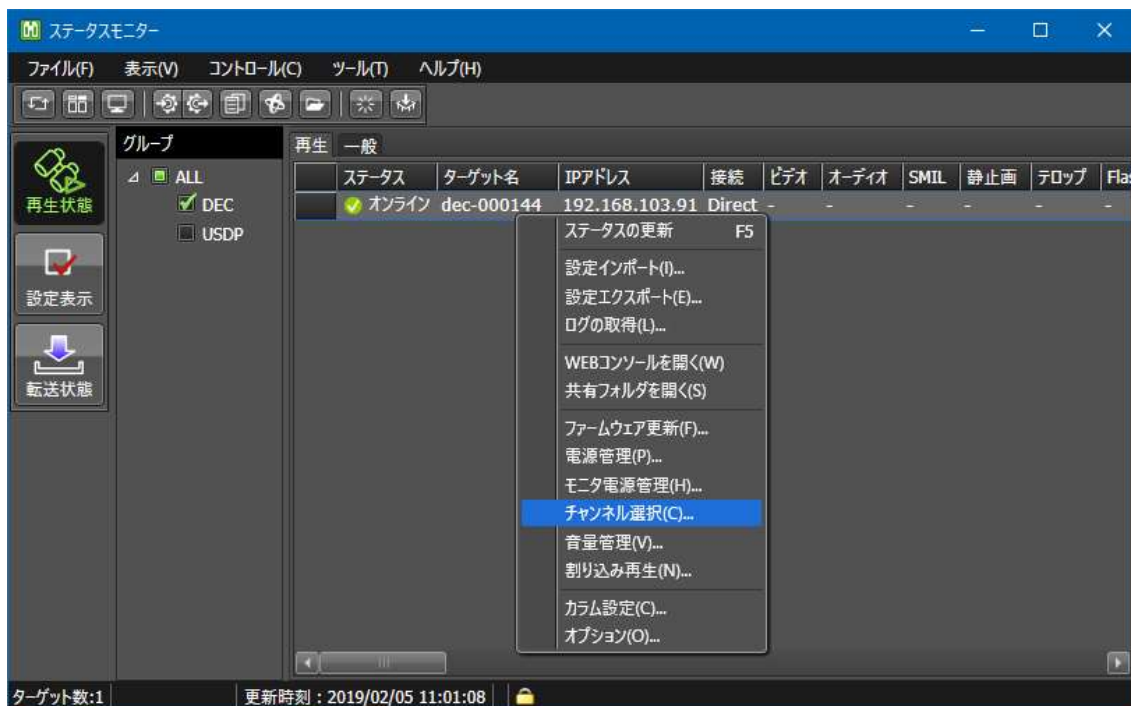
必ず事前に動作確認を行ってください。ステータスで再起動しても Unknown と表示されるとき、対応していない可能性があります。

■ IV-4-4. チャンネル選択

ターゲットが再生しているチャンネルを切り替えます。

- [1] メニューバーから[コントロール]-[チャンネル選択]をクリックします。

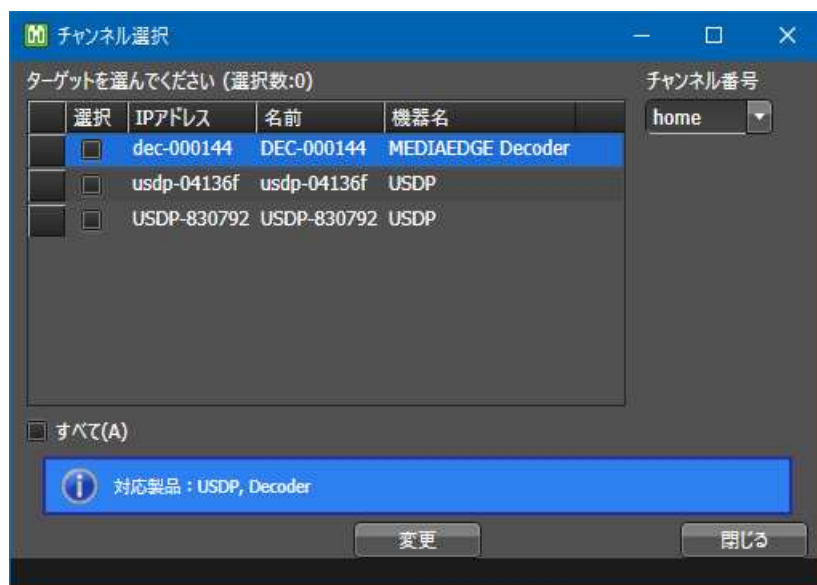
または、ステータス表示エリア内のターゲットを選択し(Shift キーまたは Ctrl キーを押しながらクリックすると複数ターゲットを選択できます)、選択したターゲット上で右クリックして表示されるコンテキストメニューから[チャンネル選択]をクリックします。



- [2] ターゲットにチェックを入れ、チャンネル番号を選択して、[変更]をクリックします。

※ この操作に対応しているターゲットのみが一覧で表示されます。

※ オンライン表示以外のターゲットに対しての操作は失敗します。

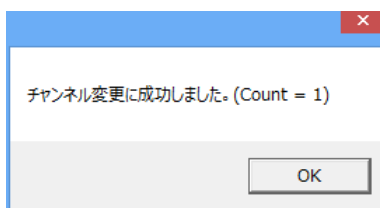


- [3] 操作の実行結果が表示されます。

※ 割り当てのないチャンネルに切り替えた場合でも失敗の表示にはなりません。割り当てのない

取扱説明書

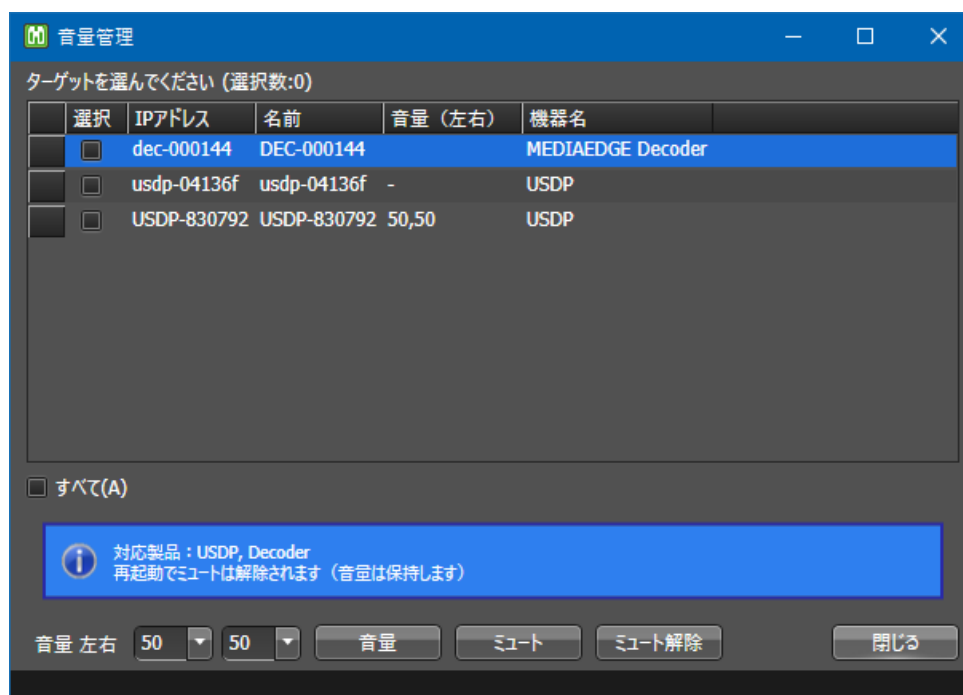
チャンネルの再生に失敗した後、ホームチャンネルを再生しようとします。



■ IV-4-5. 音量管理

ターゲットの音量を変更します。

メニューバーから[コントロール]-[音量管理]をクリックします。



注意事項

- 本体を再起動するとミュートは解除されます。
- 音量の変更はすぐに実行されますが、ステータスモニターで表示される状態は 1,2 分間前のままになります。再度ステータスの取得を行ってください。

■ IV-4-6. 割り込み再生

スケジュール再生や VOD 再生を行っているターゲットに対して、別のコンテンツの再生を指示します。

以下の 3 つのウィンドウに対して割り込み再生を行えます。

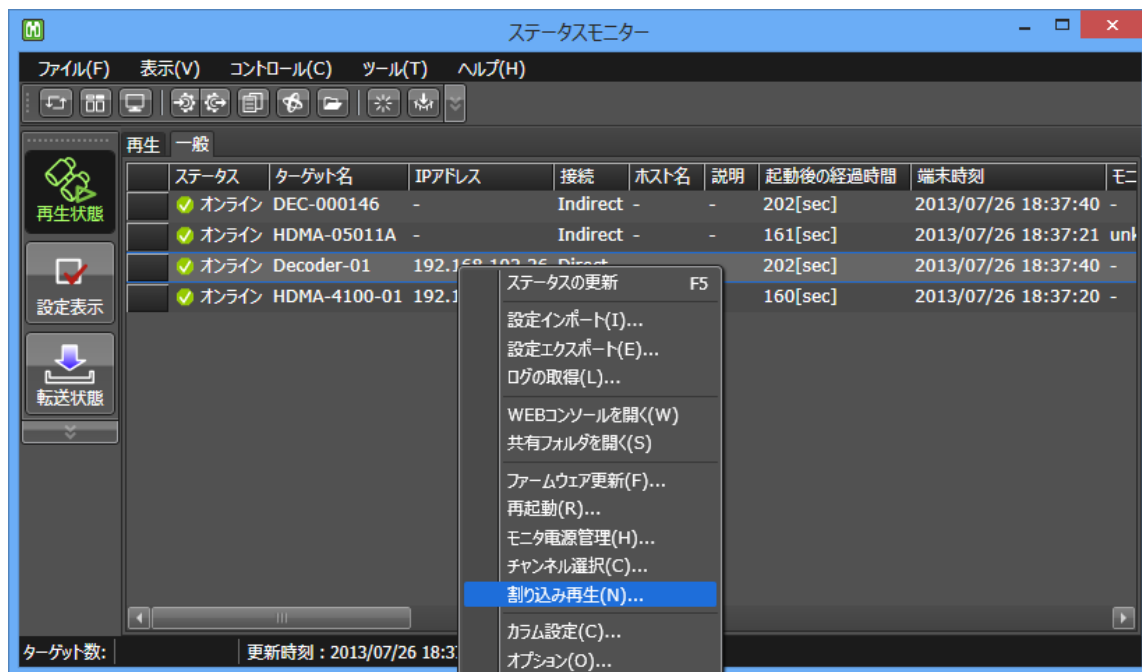
- テロップウィンドウ
- 静止画ウィンドウ
- メインウィンドウ

通常の再生はメインウィンドウで再生されており、テロップウィンドウや静止画ウィンドウに割り込み再生を行うと、通常の再生の上に重ねて表示されます。(ただしメインウィンドウでテロップが再生されていた場合には、メインウィンドウのテロップ再生のみが停止しテロップウィンドウにテロップが再生されます。)
テロップウィンドウへの割り込みが終了すると、メインウィンドウのテロップ再生は再開されます。)

メインウィンドウへ割り込み再生を行うと、通常の再生が停止し、割り込み再生が開始されます。割り込み再生が終了すると、メインウィンドウへ通常の再生が再開されます。

[1] メニューバーから[コントロール]-[割り込み再生]をクリックします。

または、ステータス表示エリア内のターゲットを選択し(Shift キーまたは Ctrl キーを押しながらクリックすると複数ターゲットを選択できます)、選択したターゲット上で右クリックして表示されるコンテキストメニューから[割り込み再生]をクリックします。



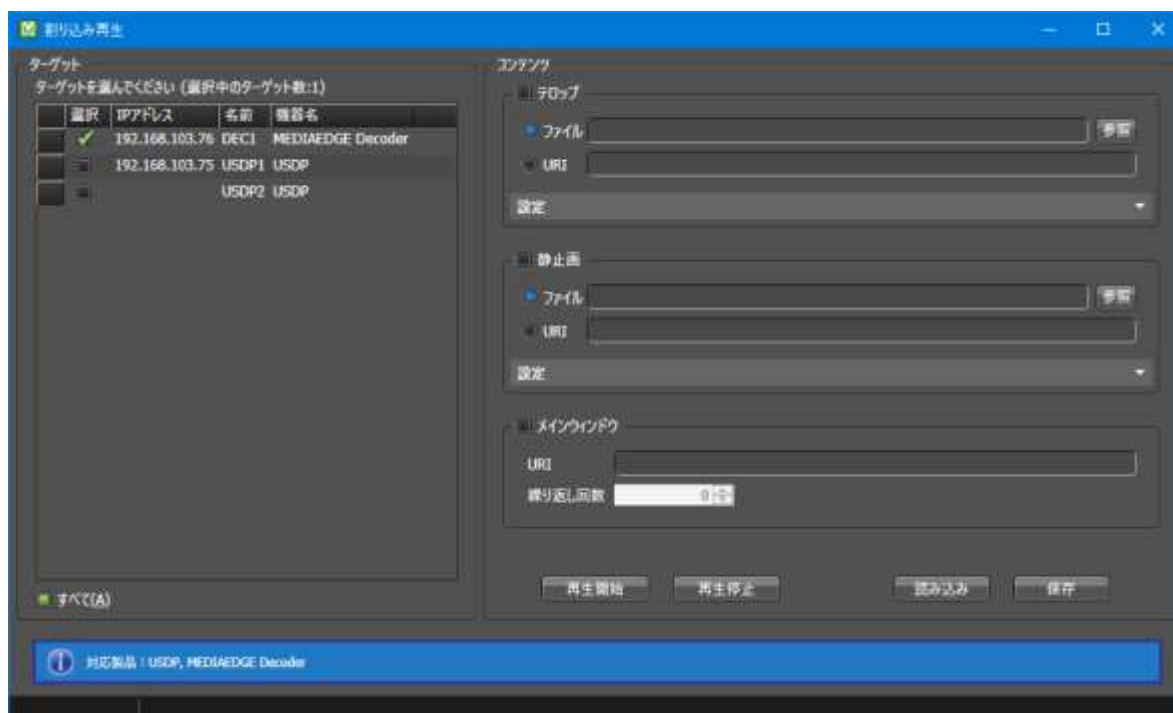
[2] 画面左側のリストからターゲットにチェックを入れ、画面右側で割り込ませるウィンドウにチェックを入れ(複数同時指定も可能です)、コンテンツを指定し、[再生開始]をクリックします。

-> 割り込むコンテンツの指定方法については後述の説明を参照してください。

※ この操作に対応しているターゲットのみが一覧で表示されます。

※ オンライン表示以外のターゲットに対しての操作は失敗します。

※ 実行結果は、再生状態画面にて確認します。



[3] 割り込み再生を停止するには、画面左側のリストからターゲットにチェックを入れ、画面右側で停止させたいウィンドウにチェックを付け(複数同時指定も可能です)、[再生停止]をクリックします。

※ メインウィンドウの割り込みを停止させる際に2回停止させてしまうと、(1回目で割り込み再生を停止し、)2回目でスケジュール再生自体が止まってしまうため、注意してください。

以下ではそれぞれのコンテンツについて説明します。

IV-4-6-1. テロップ

● テロップの指定方法

- [ファイル]、[URI]の2通りの指定方法があります。
- [ファイル]を選択した場合、[参照]をクリックしてテキストファイルかRSSファイルを選択します。
- [URI]を選択した場合、ターゲットから見てアクセス可能なテキストまたはRSSファイルのURIを入力します。認証が必要なURIの場合は、「http://user:password@host/telop.txt」のようにユーザー名とパスワードをURI中に埋め込むことができます。

● 詳細設定

- [設定 ▼]をクリックすると詳細設定の入力欄が展開されます。

- 座標(X)、座標(Y)、幅、高さ
 - ウィンドウの左上の X 座標、Y 座標および横幅、縦幅を指定します。
 - 1920×1080 ドットのレイアウトの中に任意のウィンドウ位置を指定します。
- スクロール速度
 - テロップの文字がスクロールする速度を指定します。
 - 1/60 秒に移動するドット数を偶数で指定します。(奇数を指定した場合、1 を引いた値に丸められます。ただし 1 を指定した場合には 2 に丸められます。)
- 繰り返し回数
 - 指定した回数だけ再生をループします。
 - 0 を指定した場合は停止操作を行うまで再生し続けます。
- 文字色
 - テロップの文字の色を RRGGBB で指定します。透過色を指定しても無視されます。
- 背景色
 - テロップウィンドウの背景色を AARRGGBB で指定します。透過率も指定できます。
- 回転、向き
 - 文字の回転方向を反時計周りを正方向とする角度で指定します。
 - テロップの進行方向を指定します。
- フォントサイズ
 - テロップの文字サイズをドットで指定します。
- 読み込み
 - 保存されたテロップの詳細設定を読み込みます。
- 保存
 - テロップの詳細設定に名前を付けて保存します。
 - ファイルや URI については保存されません。

IV-4-6-2. 静止画

● 静止画の指定方法

- [ファイル]、[URI]の2通りの指定方法があります。
- [ファイル]を選択した場合、[参照]をクリックして静止画ファイルを選択します。
- [URI]を選択した場合、ターゲットから見てアクセス可能な静止画ファイルの URI を入力します。
認証が必要な URI の場合は、「http://user:password@host/stillimage.png」のようにユーザー名とパスワードを URI 中に埋め込むことができます。

● 詳細設定

- [設定 ▼]をクリックすると詳細設定の入力欄が展開されます。

- 座標(X)、座標(Y)、幅、高さ
 - ウィンドウの左上の X 座標、Y 座標および横幅、縦幅を指定します。
 - 1920 × 1080 ドットのレイアウトの中に任意のウィンドウ位置を指定します。
- 回転
 - 静止画の回転方向を反時計周りを正方向とする角度で指定します。
- ストレッチ
 - チェックすると、静止画のアスペクト比を無視してウィンドウサイズに伸縮して表示します。
 - チェックを外すと、静止画のアスペクト比を保ったままウィンドウサイズの上下または左右一杯に伸縮して表示されます。
- ミュート
 - チェックすると、ターゲットの音量をミュートに設定します。
 - チェックを外すと、ターゲットの音量をミュートに設定しません。
 - 再生停止の際にはチェックに関わらずミュート解除されます。
- 読み込み
 - 保存された静止画の詳細設定を読み込みます。
- 保存
 - 静止画の詳細設定に名前を付けて保存します。
 - ファイルや URI については保存されません。

IV-4-6-3. メインウィンドウ

● コンテンツの指定方法

- [URI]による指定方法ができます。
- [URI]には、静止画、HTML、ビデオの任意の URI が記述できます。(テロップも指定できますが、全画面表示になってしまうため実運用上お勧めしません。)
- 静止画、HTML の URI を指定する場合、ターゲットから見てアクセス可能なファイルの URI を入力します。認証が必要な URI の場合は、「http://user:password@host/stillimage.png」のようにユーザー名とパスワードを URI 中に埋め込むことができます。
- ビデオの URI を指定する場合、予めターゲットのローカル HDD などに配置しておいたファイルの URI を指定できます。
 - 例 「file:///drives/internal_HDD/MEDIAEDGE/Video/ResortAVC.m2ts」

● 詳細設定

- 繰り返し回数
 - 指定した回数だけ再生をループします。
 - 0 を指定した場合は停止操作を行うまで再生し続けます。

IV-4-6-4. コンテンツ全体の保存と読み込み

割込み画面右下の[読み込み]と[保存]ボタンによってコンテンツ全体の設定を保存し、次回にすばやく読み出すことが出来ます。

- 読み込み
 - 保存されたコンテンツ全体の設定を読み込みます。
- 保存
 - コンテンツ全体の設定に名前を付けて保存します。
 - テロップのファイルまたは URI と詳細設定
 - 静止画のファイルまたは URI と詳細設定
 - メインウィンドウの URI と詳細設定

注意

ファイルの割り込み再生ができない場合

サーバーアドレスがマシン名になっている可能性があります。MEDIAEDGE Decoder は Windows のマシン名を認識できません。

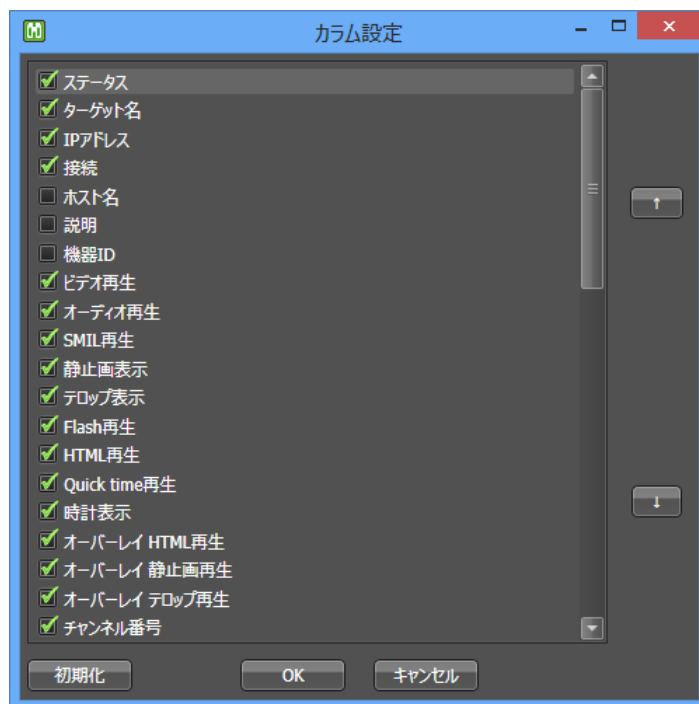
[ツール] [接続設定] の API-Host のアドレス、または、DCM を使用の場合は DCM 設定ツールの STEP2 で、アドレスをマシン名から IP アドレスに変更してください。

IV-5. ツールメニュー

■ IV-5-1. カラム設定

ステータス表示エリアの表示列を編集します。

- [1] メニューバーから[ツール]-[カラム設定]をクリックします。
 または、ツールバーから[カラム設定]ボタンをクリックします。
 または、ステータス表示エリア内のターゲット上で右クリックして表示されるコンテキストメニューから[カラム設定]をクリックします。
- [2] 表示するカラムにチェックを入れ、[OK]をクリックします。
 -> カラムを選択して、右側の上下ボタンをクリックすると表示順を変更できます。
 -> 左下の[初期化]ボタンをクリックするとチェック状態と表示順が初期化されます。



- ※ カラム設定ダイアログでは現在表示中の画面、タブの表示列を編集できます。別の画面、別のタブの表示列を編集したい場合には、その画面、タブを表示した状態で[カラム設定]を行ってください。
- ※ ステータス表示エリアのカラムを直接ドラッグ＆ドロップすることでも表示順を入れ替えることができます。また、カラムの端をドラッグ＆ドロップすることで表示幅を調整することができます。

■ IV-5-2. 接続設定

ステータスマニターの初期設定を行います。

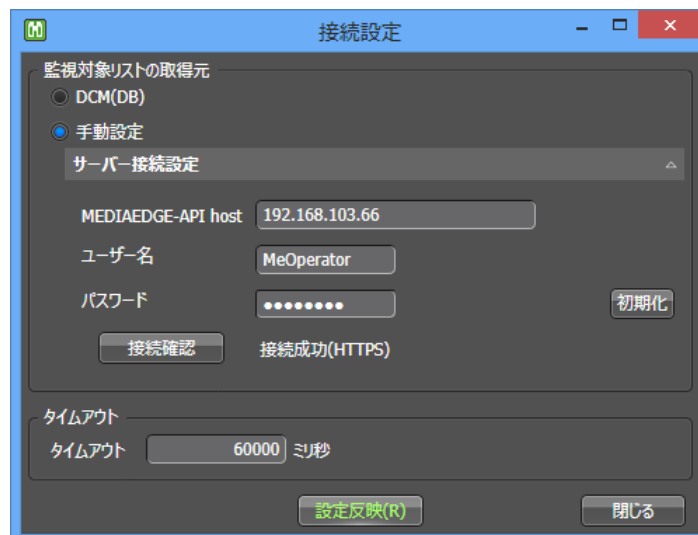
[1] メニューバーから[ツール]-[接続設定]をクリックします。

[2] [監視対象リストの取得元]を設定します。

- > ステータスマニターの単独インストールの場合には、[■ II-1-3 StatusMonitor 初回起動時の設定]を参照して設定してください。
- > ステータスマニターを Display Content Manger と合わせて利用するには、[■ II-2-3 StatusMonitor 初回起動時の設定]を参照して設定してください。

[3] タイムアウト時間を設定します。

※ ターゲットの電源が入っているにも関わらずステータスがオフラインになってしまう場合には30000～60000 ミリ秒などの大きな値に設定してください。



[4] [設定反映]をクリックし、[閉じる]をクリックします。

※ [設定反映]をクリックした後に画面が白くなったまま操作が出来なくなった場合には、ステータスマニターを強制終了させるか、コンピュータを再起動させてから再度設定を行ってください。

■ IV-5-3. オプション

オプションウィンドウを開きます。

[1] メニューバーから[ツール]-[オプション]をクリックします。

または、ステータス表示エリア内のターゲット上で右クリックして表示されるコンテキストメニューから[オプション]をクリックします。

詳細については[IV-7 オプション設定]で説明します。

IV-6. ヘルプメニュー

■ IV-6-1. ログフォルダを開く

ステータスモニターの動作ログのフォルダを表示します。

[ログ設定]により回収したプレイヤーのログはこのフォルダに保存されていません。そちらのフォルダの位置は[■ IV-7-5 ログ設定]の[回収したログの保管場所]を参照してください。

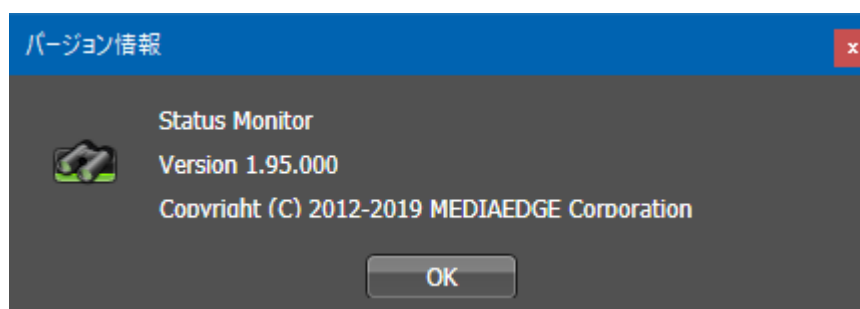
[1] メニューバーから[ヘルプ]-[ログフォルダを開く]をクリックします。

※ ステータスモニターが強制終了してしまったなどの不具合が発生した場合に、原因の究明のため、このログファイルが必要になる場合があります。

■ IV-6-2. バージョン情報

ステータスモニターのバージョン情報を表示します。

[1] メニューバーから[ヘルプ]-[バージョン情報]をクリックします。



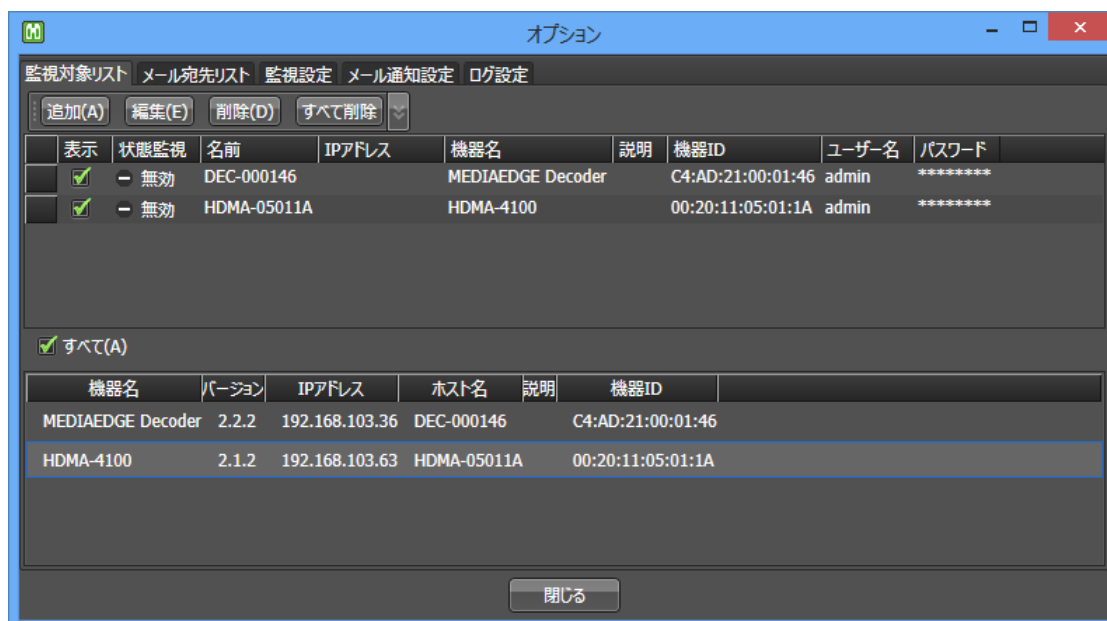
IV-7. オプション設定

■ IV-7-1. 監視対象リスト

ターゲットの追加、削除を行います。また、メイン画面のステータス表示エリアに表示するかどうかのチェックや[状態監視]の有効/無効をターゲットごとに設定します。

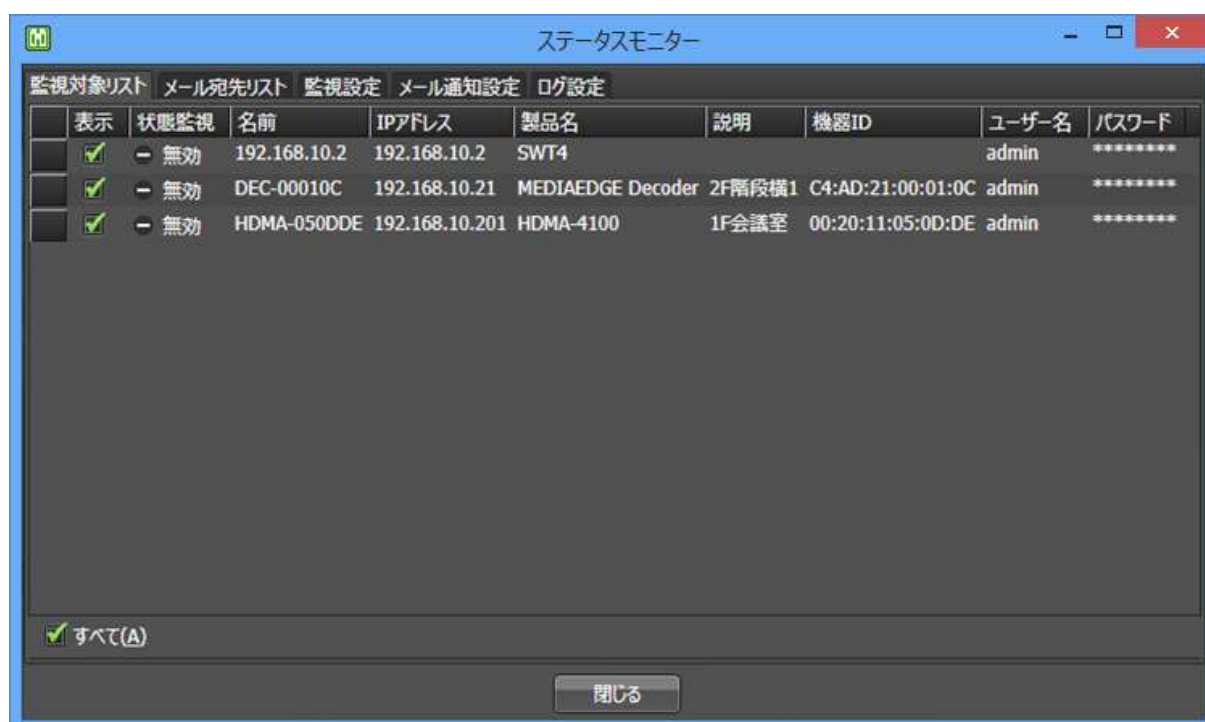
IV-7-1-1. [監視ターゲットリストの取得元]が[手動設定]のとき

- ターゲットの追加方法については[III-1 Status Monitor を単独で利用する場合]を参照してください。
- 上側のリストから[表示]のチェックを外すと、メイン画面のステータス表示エリアから一時的に非表示できます。
- 上側のリストからターゲットを右クリックし表示されるコンテキストメニューより[有効にする]をクリックすると、[状態監視]を有効にできます。また[編集]をクリックし表示されるダイアログより[状態監視]のチェックをすることでも有効に出来ます。
- 状態監視の有効無効は、メール通知に関係します。(ログ設定には無関係です)



IV-7-1-2. [監視ターゲットリストの取得元]が[DCM(DB)]のとき

- ターゲットの追加方法については[III-2 Display Content Manager と合わせて利用する場合]を参照してください。
- 上側のリストから[表示]のチェックを外すと、メイン画面のステータス表示エリアから一時的に非表示できます。
- 上側のリストからターゲットを右クリックし表示されるコンテキストメニューより[有効にする]をクリックすると、[状態監視]を有効にできます。また[編集]をクリックし表示されるダイアログより[状態監視]のチェックをすることでも有効に出来ます。



■ IV-7-2. メール宛先リスト

監視結果をメールにて通知するための宛先を設定します。

【11】「追加」をクリック、または登録されている宛先を1つ選択して「編集」をクリックします。



[2] 必要事項を入力し、[設定反映]をクリックします。

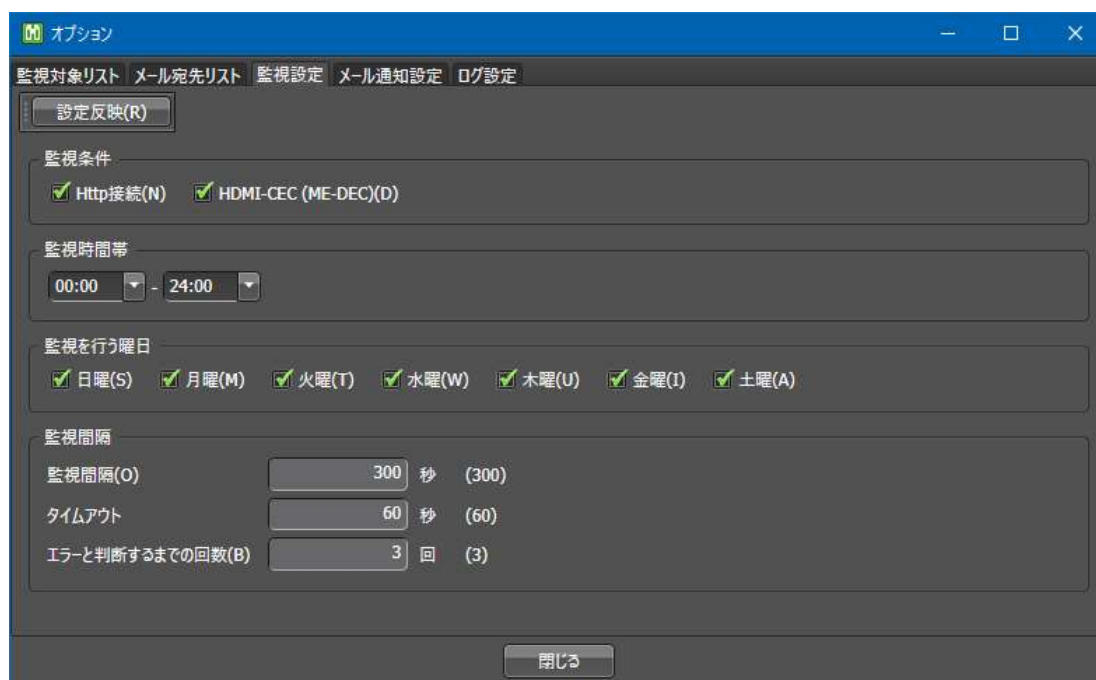
- > タイトル 表示名です。任意の文字列を入力してください。
- > メールアドレス 通知先のメールアドレスを入力します。
- > 説明 補足説明を入力します。
- > メール通知を有効にする チェックを付けると、メール通知を行います。チェックを外すと、一時的に通知対象から外すことができます。



■ IV-7-3. 監視設定

監視条件を設定します。

- ターゲットの状態を定期的に監視し、エラーが発生した場合にメールにて通知します。
- ステータスマニターを終了しても、監視機能は動作します。(MEDIAEDGE-API がインストールされているコンピュータの電源は落とさないようにしてください)
- 正常から失敗、失敗から正常に変わるとき、メールを通知します。
- 監視対象リストで監視が有効のものが、メール通知の対象になります。
- メール宛先リストにあるメールへ通知します。
- メール通知設定が必要です。



以下の設定を行って、画面左上の[設定反映]をクリックします。

監視条件

- Http 接続
Http アクセス確認を行います。接続が出来ない場合にエラーとして判定します。
- HDMI-CEC
ターゲットとモニター間の HDMI 接続の状態を監視します。
HDMI ケーブルが接続できていないときエラーとして判定します。モニターの仕様により接続を検出できない場合があります。事前に動作確認を行ってください。対応製品 MEDIAEDGE Decoder のみ。

監視時間帯

- 監視時間帯

取扱説明書

監視を行う時間帯を指定します。

- 監視を行う曜日

監視を行う曜日を指定します。

監視間隔

- 監視間隔

ステータスを監視する間隔を指定します。タイムアウト時間よりも大きな値を指定してください。

- タイムアウト

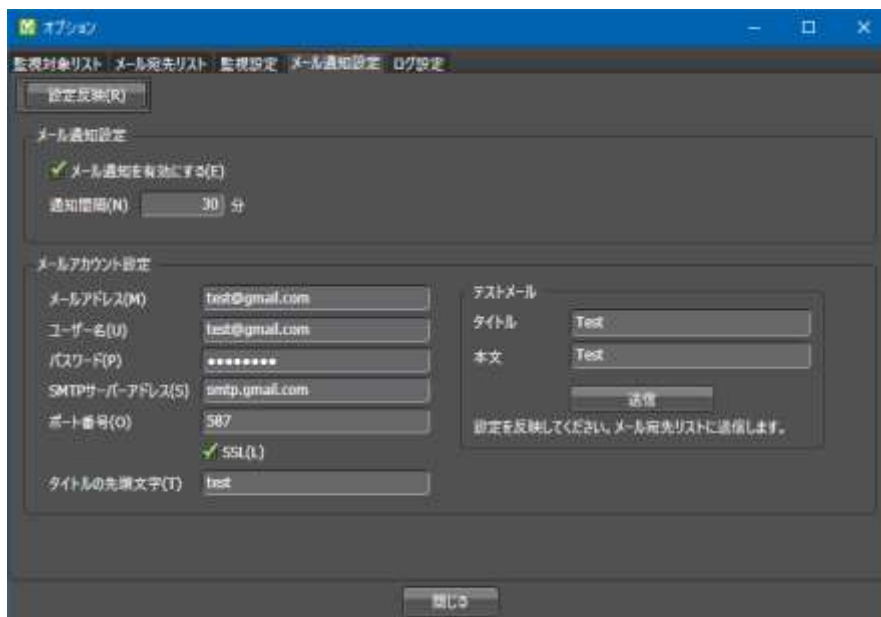
監視動作のタイムアウト時間を設定します。初期値 60 秒です。

- エラーと判断するまでの回数

指定した回数連続してエラーを検出した場合にメール通知を行います。正常からエラー回数後、エラーから正常に変わったときにメール通知をします。

■ IV-7-4. メール通知設定

監視結果をメールにて通知するための設定を行います。



以下の設定を行って、画面左上の[設定反映]をクリックします。

- メール通知設定
 - メール通知を有効にする
チェックを付けると、監視結果に変化があった際に定期的にメールを発報します。チェックを外すと、監視設定が有効であっても通知しません。
 - 通知間隔
監視結果に変化があったターゲットを一定間隔で一通にまとめて通知します。
- メールアカウント設定
 - メール通知の送信に用いるメールアカウントの情報を設定します。
 - メールアドレス 発信元メールアドレス
 - ユーザー名 SMTP サーバー認証用のユーザー名
 - パスワード SMTP サーバー認証用のパスワード
 - SMTP サーバーアドレス SMTP サーバー名
 - ポート番号 SMTP サーバーポート番号
 - SSL 暗号化の有無
- テストメールの送信
 - メールアカウント設定が正しいかどうか確認することが出来ます。
 - [設定反映]ボタンを押してから、[送信]ボタンを押してください。
 - [メール宛先リスト]で有効になっている宛先すべてに配信されます。

Gmail 例

項目	例
メールアドレス	※@gmail.com
ユーザー名	※@gmail.com
パスワード	(アカウントのパスワード)
SMTP サーバーアドレス	smtp.gmail.com
ポート番号	587
SSL	有効

送信テストに失敗するとき

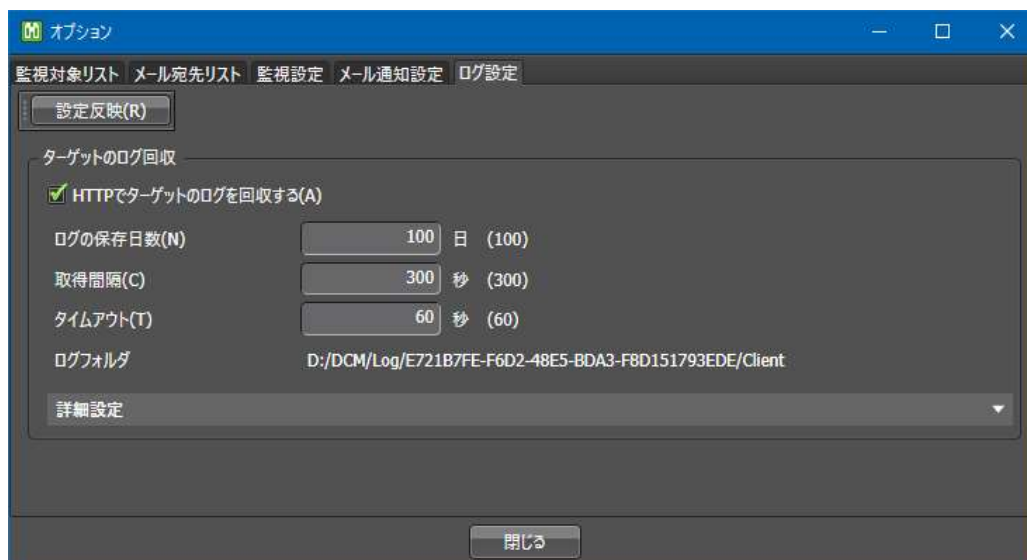
- メール宛先リストも設定してください。
 - 設定反映を押してから、送信テストを行ってください。
-
- Gmail で「ログインをブロックしました」というメールが届いたとき (2021/5)
 1. Google アカウント画面に移動します。(Gmail ではないです)
 2. 左側「セキュリティ」をクリック、下の方の「安全性の低いアプリのアクセス」を有効にします。



■ IV-7-5. ログ設定

ターゲットのログの自動回収の設定を行います。

ステータスマニターを終了していても、このログ自動回収の機能は動作します。(MEDIAEDGE-API がインストールされているコンピュータ上で動作しています)



以下の設定を行って、画面左上の[設定反映]をクリックします。

- HTTP でターゲットのログを回収する
 - チェックを付けると、定期的にログを回収します。
 - ログの保存日数 自動回収したログの保存日数を指定します。(初期値 100 日)
 - 取得間隔 ログを取得する間隔を指定します。(初期値 300 秒)
 - タイムアウト 応答が無い場合のタイムアウト。(初期値 60 秒)
- リモートログを受信する(通常は使用しません)
 - チェックを付けると、ターゲットから送信されてくる syslog を受信しファイルに保存します。
 - UDP554 番ポートで待ち受けるため、ファイアウォールを開ける必要があります。
 - 予めターゲットの[リモートログ]設定を行い、送信先を設定する必要があります。
 - インターネット経由など、間に NAT を挟む環境下では意図通り動作しない可能性がありますので、LAN 環境の場合のみ利用するようにしてください。
- 回収したログの保管場所
 - ステータスマニターを単独でインストールした場合
 [■ II-1-2 MEDIAEDGE-API 設定ツール]で設定したフォルダ以下にある[Watches]フォルダ内
 - Display Content Manager と合わせて利用する場合
 DCM フォルダの Log の Client。C:¥DCM¥Log、または、D:¥DCM¥Log になります。